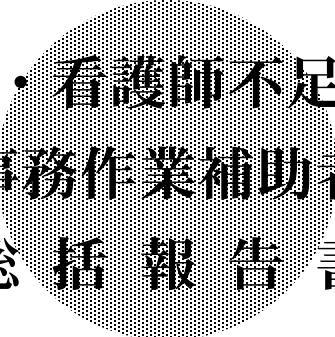
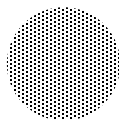
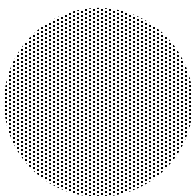


平成25年度文部科学省
東日本大震災からの復興を
担う専門人材育成支援事業



宮城県の医師・看護師不足を補うための
医師事務作業補助者育成
総括報告書



宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成

平成25年度文部科学省

東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

宮城県の医師・看護師不足を補うための

医師事務作業補助者育成

総括報告書

宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成

目 次

事業報告

事業概要及び内容

1. 事業の概要	1
2. 教育プログラム・教材の開発内容等	1
①「電子カルテ代行入力教材・問題集」	1
②「医師事務作業補助者育成教材・問題集」	1
③「医師事務作業補助者教育指導のポイント」	2
④「医療用語集」	2
⑤「e-laerning 教材」	2
3. 講座実施	3
3-1. 中級講座	3
①日時	4
②会場	4
③参加者	4
④カリキュラム等	4
⑤実施時間	4
⑥科目別カリキュラム	5
⑦講師	7
⑧受講募集および受講者数	7
⑨募集内容	7
⑩応募者プロフィール	9
3-2. 上級講座	15
①日時	15
②会場	15
③参加者	15
④カリキュラム等	15
⑤実施時間	15
⑥科目別カリキュラム	16
⑦講師	18

⑧受講募集および受講者数	18
⑨募集内容	18
⑩応募者プロフィール	20
3-3. 医師事務作業補助者学生講座	27
①日時	27
②会場	27
③参加者	27
④講習目的	27
⑤カリキュラム等	27
⑥講師	27
3-4. 医師事務作業補助者育成教育教員研修会	28
①日時	28
②会場	28
③参加者	28
④講習目的	28
⑤カリキュラム等	28
⑥講師	28
3-5. e-learning 検証	29
①日時	29
②会場	29
③参加者	29
④講習目的	29
⑤カリキュラム等	29
⑥講師	29
4. 講座実施結果	30
4-1. 中級講座 アンケート集計結果	30
4-2. 上級講座 アンケート集計結果	41
4-3. 講座風景	50
4-4. 医師事務作業補助者学生講座 アンケート集計結果	51
4-5. 医師事務作業補助者育成教育教員研修会 アンケート集計結果	58
4-6. e-learning 検証 アンケート集計結果	59

5. 視察調査報告	6 3
①岩手県、宮城県、福島県の医療機関の復旧・復興状況	6 3
②視察概要	6 4
③視察概要	6 4
(1) 社会医療法人 愛仁会 高槻病院	6 5
(2) 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院	7 1
(3) 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院	7 6
(4) 広島赤十字・原爆病院	8 5
(5) 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院	9 5
(6) いわき市立総合磐城共立病院	1 0 0
(7) 医療法人 松田会 松田病院	1 0 6
(8) 医療法人社団赤石会 赤石病院	1 1 1

宮城県の医師・看護師不足を補うための 医師事務作業補助者育成 事業報告

事業概要及び内容

1. 事業の概要

宮城県は、「宮城県地域医療復興計画平成24年度～平成27年度」の中で、宮城県全体の医師数は、全国水準に比較し低位で推移しており、特に仙台医療圏以外では医師が著しく不足していると統計数値を発表した。また看護職員の不足も医師同様に仙台医療圏以外での確保が困難な状況であり、震災がそれをさらに深刻化させることを発表した。

本事業では、昨年に引き続き、専門学校として医療人材確保が可能な医師事務作業補助者を育成し、医師が行わなければならない文書処理の負担軽減を図るとともに宮城県医療福祉情報通信ネットワーク構築に重要な役割を果たす電子カルテの代行入力作業が出来る人材を育成し、医師や看護職員の確保困難地域への人材供給および宮城県内の医療の安定と継続に貢献する。

2. 教育プログラム・教材の開発内容等

①「電子カルテ代行入力教材・問題集」

IT化の流れ、電子カルテの定義、電子カルテ関連知識、電子カルテと地域医療情報システム、電子カルテシステム関連用語、電子カルテ入力演習など、被災地に役立つ内容となるよう開発した。

電子カルテシステムの実際の操作や活用を演習するための問題集を開発した。ロールプレイング形式の問題が好評であることから、実践的感覚を身に付けられるように医師と患者のやり取りを問答形式に取りまとめた。

②「医師事務作業補助者育成教材・問題集」

医師が行っている仕事の内容や医師が作成しなければならない文書の種類を学び、医師にかかわって医療文書の原案を作成できる人材を育成するための教材を開発した。また、前年度講座受講者のレベルにばらつきがあったことを鑑みレベル別（中級編・上級編）に開発を行った。

教材は中級編・上級編とも＜1部＞法規・概要、＜2部＞医学・薬学・医師事務作業補助業務の2部構成となっている。

問題集は中級編・診療所、100床未満の医療機関でよく出てくる文書、上級編・200床以上の医療機関でよく出る文書や院外文書等の構成となっている。

③「医師事務作業補助者教育指導のポイント」

次年度以降の講座開講機会の拡大に伴い医療文書作成教育を行える人材の育成を目的として、本事業で開発した教材をもとに医療文書作成教員育指導のポイントを抽出し中級編・上級編と開発した。

④「医療用語集」

医療現場や講座受講者等からの意見を反映し、リニューアルを行った。今年度は、医療現場でよく使われるカタカナ用語を中心にカルテによく出る医療用語や病院用語等で作成を行った。

⑤「e-learning 教材」

昨年度の検証の検証結果を基に本年度も e-learning の開発を行った。コンテンツは、医師に代わって医療文書や関連文書等の原案作成が出来る人材を育成する内容となっており、10 タイトルのケーススタディーを学ぶことが出来る。

具体的には、診療シーンのビデオを見ながら指示に従って文書を作成するロールプレイング型のシステムを採用した。

3. 講座実施

3-1. 中級講座

①日 時

平成25年9月21日(土), 28日(土), 10月5日(土), 12日(土)計4日

②会 場

東北保健医療専門学校

③参加者

宮城県内の受講者 合計32名

④カリキュラム等

医療に従事している方および医療関係に従事したことのある方を対象としてカリキュラムを設計。

また、医師事務作業補助者の登録要件に32時間以上の知識教育が定められており、授業時間数は2科目で28時間程度とし、自宅でのレポート作成、提出を4時間分相当として講座を展開した。

⑤実施時間

9/21	7時間	内訳：文書作成3時間	電子カルテ4時間
9/28	7時間	内訳：文書作成3時間	電子カルテ4時間
10/5	7時間	内訳：文書作成3時間	電子カルテ4時間
10/12	7時間	内訳：文書作成実技3時間	電子カルテ実技4時間

*なお、32時間に満たない時間数はレポート提出で補うことにした。

⑥科目別カリキュラム

◆9月21日

[午前]

09:00～10:00	講義	野田	医師事務作業補助者とは
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	野田	視察状況（医師事務の業務内容）
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	野田	関連法規（確認テスト）

[午後]

13:00～14:00	講義	柄沢	電子カルテの定義
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義	柄沢	電子カルテの機能性
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義	柄沢	問診表の入力
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義	柄沢	電子カルテの記載方法

◆9月28日

[午前]

9:00～12:00	講義	野田	関連法規、医師法、医療法、その他
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	野田	医療保険制度、個人情報保護
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	野田	診療録の記載（項目別確認テスト）

[午後]

13:00～14:00	講義	柄沢	電子カルテ（POS，SOAPとは）
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義	柄沢	入力支援ツール（テンプレート、シェーマ図）
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義	柄沢	クリティカルパスの説明
16:00～16:10	講義		
16:10～17:00	休憩	柄沢	電子カルテシステムの基本的な機能

※第1回のレポート提出

◆10月5日

[午前]

9:00~10:00	講義	伊藤	医学、薬学の基礎 略語
10:00~10:10	休憩		
10:10~11:00	講義	伊藤	文書作成の業務内容、医療用語
11:00~11:10	休憩		
11:010~12:00	講義	伊藤	文書作成の手順

[午後]

13:00~14:00	講義	柄沢	医事会計、検査、医療用画像
14:00~14:10	休憩		
14:10~15:00	講義	柄沢	レセプト電算処理
15:00~15:10	休憩		
15:10~16:00	講義	柄沢	オンライン請求システム
16:00~16:10	休憩		
16:10~17:00	講義	柄沢	電子カルテ入力演習問題

◆10月12日

[午前]

9:00~10:00	講義	伊藤	カルテの読み方 文書の提出先
10:00~10:10	休憩		
10:10~11:00	講義	伊藤	文書作成（診断書、紹介状、処方せん等）
11:00~11:10	休憩		
11:010~12:00	講義	伊藤	診療情報提供書、主治医意見書作成

[午後]

13:00~14:00	講義	柄沢・伊藤	文書作成（練習問題）
14:00~14:10	休憩		
14:10~15:00	講義	柄沢・伊藤	電子カルテ・文書作成
15:00~15:10	休憩		
15:10~16:00	講義	柄沢・伊藤	〃（独自で作成した文書を電子カルテに入力）
16:00~16:10	講義		
16:10~17:00	休憩	柄沢・伊藤	〃

*第2回レポート提出

⑦ 講 師

- ・ 医療文書作成 株式会社 NI メディカルオフィス 伊藤 典子先生
日本工学院八王子専門学校 野田 雅司先生
- ・ 電子カルテ代行入力 ケアアンドコミュニケーション株式会社 柄沢 清先生

⑧ 受講募集および受講者数

参加募集は、河北新聞への広告掲載による方法で行った。結果、募集定員 30 名の募集に対し申込者数は 43 名の受講希望者を得ることができた。

⑨ 募集内容

- 講 座：【中級】医師事務作業補助者養成講座
～宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成～
- 対象者：現在、医療に従事している方。医療事務を学んだことのある方。
- 受講料：無料
- 期 間：平成 25 年 9 月 21 日（土）、28 日（土）、10 月 5 日（土）、12 日（土）
9:00～17:00（休憩・昼食時間など含む） 計 4 日 32 時間
- 会 場：東北保健医療専門学校
- 定 員：30 名
- 申込み方法：東北保健医療専門学校のホームページ
 - ・ 氏名・性別・年齢・住所
 - ・ 医療関連事務経験の有無
 - ・ 電子カルテ入力経験の有無
 - ・ 医療文書作成経験の有無
 - ・ 応募動機
- 締切り：平成 25 年 9 月 5 日（木）必着
- 募集方法：新聞広告・東北保健医療専門学校ホームページ

■新聞広告等

文部科学省委託事業 東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業
宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業

医師事務作業補助者 中級養成講座

受講生募集!! 4日間(計32時間) **受講料無料**

<p>医療文書作成</p> <p>診療所や100床未満の医療機関で文書を作成できる人材を養成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医師事務作業補助者の仕事や制度を理解。 ●診療情報提供書、診断書、紹介状等の内容を理解し文書作成。 	<p>電子カルテ代行入力</p> <p>電子カルテ代行入力に必要な知識をソフト実習で学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●POS・POMRを理解。 ●SOAP形式によるカルテの記載等。
--	--

対象 ●現在、医療に従事している方
●医療事務を学んだことのある方

定員 30名 ※応募者多数の場合は、選考の上、決定します。

期間 平成25年
9月21日(土)・9月28日(土)
10月5日(土)・10月12日(土)
時間 9:00～17:00 (休憩・昼時間等を含む)

申し込み方法 インターネットより 9月5日(木) 必着
お申込みください。
下記URLのバナーより受付しています。
<http://tmc.ac.jp/>

会場 東北保健医療専門学校
仙台市青葉区花京院 1-3-1

※期間中は公共交通機関をご利用ください。

(主催) 学校法人日本コンピュータ学園 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-3-1
東北保健医療専門学校 ☎ 0120-150-730
設置学科 医療秘書科・医療情報管理科・理学療法科・作業療法科・介護福祉科

⑩応募者のプロフィール

男女別地域別応募者一覧

男子		女子		合計	
地域	人数	地域	人数	地域	人数
岩沼市	2	岩沼市	1	岩沼市	3
栗原市		栗原市	1	栗原市	1
柴田町		柴田町	3	柴田町	3
石巻市		石巻市	2	石巻市	2
仙台市	1	仙台市	24	仙台市	25
大河原町		大河原町	1	大河原町	1
村田町		村田町	1	村田町	1
大崎市		大崎市	2	大崎市	2
松島町		松島町	1	松島町	1
登米市		登米市	1	登米市	1
栗原市		栗原市	1	栗原市	1
白石市		白石市	1	白石市	1
富谷町		富谷町	1	富谷町	1
地域合計	3	地域合計	40	地域合計	43

受講者応募動機等一覧

No	性別	住所	年齢	経験	応募動機
1	女	仙台市	48	有	先に初級を受講させていただきましたが、よりスキルアップしたいと考えて応募しました。
2	女	仙台市	33	有	身近で医療事務として従事している者が居た影響もあり興味を持ったことがきっかけとなり、医療事務の勉強し資格を取りました。その際に医師事務作業補助という仕事がある事を知りました。学びたい気持ちがあったものの残念ながら学ぶ機会を得る事は出来ませんでした。この度養成講座の募集を拝見し、是非受講をしたく思い応募致しました。どうぞ宜しくお願い致します。
3	女	仙台市	51	有	夫が南相馬市でクリニックを経営していますが、医療事務を応募しても即戦力となる方が見つからない状態です。そのため、私が看護業務と医療事務を片手間に手伝っている状態です。医療事務の手助けをしたいと考え応募させて頂きました。よろしくお願いたします。
4	女	仙台市	44	有	昨年、医療事務の資格を取得しましたが、レセプト以外の事も勉強したいと思い応募しました。求人にも、医師事務作業補助者があり、どんな事をするのか興味があります。資格を活かした仕事に就きたいので、ぜひ、講習を受けたいです。宜しくお願いします。
5	女	仙台市	45	有	突然、東日本大震災発生前後で、思いがけず、生死の境をさまよう経験をしましたが、その時に医療従事者を含め、周囲の方々に大変お世話になり、支えられ、励まされ、今こうして生かされている私がおります。以前より、この貴重な経験を生かして、これからの社会に是非貢献したいと考え、今回の講座へ応募致しました。何卒宜しくお取り計らいの程、お願い申し上げます。
6	男	仙台市	49	有	今後、現在勤務している法人にて老健施設を開設する予定。その準備のためにまた学んでみたい。
7	女	仙台市	48	有	以前から興味がありました。年齢が年齢だけに、各当しないのかな～と思いましたが、是非、挑戦したいです。(昨年まで、医療に従事していました。)
8	女	仙台市	29	有	医療事務と調剤事務の資格を持っているのですが、もっと知識を深めたいと思い志望しました。

No	性別	住所	年齢	経験	応募動機
9	女	仙台市	47	有	整形外科クリニックで、看護助手や受付をしています。電子カルテ（ダイナミクス）で、多少、オーダーリング入力もしています。現在のスキルアップとして、カルテ代行入力や、医療文書の作成のノウハウも学びたいと思い、応募いたしました。子供も手が離れ、自分のための時間に余裕もあります。年齢は、多少、いっておりますが、学ぶ意欲はまだありますので、どうぞよろしく願いいたします。
10	女	仙台市	49	有	現在、病棟のクラークに従事しておりますが、今迄の経験と資格を活かして、以前から興味があった医師事務作業補助者を目指してみたいと思い、応募致しました。
11	女	仙台市	48	有	医療事務等の仕事を希望していた為、以前学んだのですが、学習後、求人が無く実務経験はありません。全く異なる職種にて勤務していましたが、今回退職する事となりました。再度、学習し、希望する仕事をしたく受講申し込み至りました。
12	女	仙台市	32	有	専門学校で医療事務を学び、医療機関で数年働いておりました。ブランクがありますが、しっかりと学び、もう一度医療の現場で働いてみたと思っております。
13	女	仙台市	33	有	私は医療事務の資格を持ち、病院での外来クラーク業務経験があります。現在も医療事務の資格を活かし医療機関に就職することを希望しています。医師事務作業補助者養成講座には以前から関心があり、専門知識を身につけることで、より広い視野を持ち医療現場で仕事ができると考え応募しました。
14	女	仙台市	46	有	医療機関に勤務しています。医師事務作業補助者はこれから必要不可欠な仕事と思います。自分の知識とスキルがつかますし、是非受講して仕事に活かしたいと思います。宜しくお願いします。
15	女	仙台市	36	有	現在医師事務として岩沼市内の病院に勤務しています。子供もいるためパートでの勤務ですが、正社員とは違い研修もなく見よう見まねで聞きながら現在働いています。医療事務の専門学校を出て、4年ほど東京で医療事務、1年は仙台で病棟クラークの仕事をしていました。出産を機に現場から離れていましたが、昨年の春から仕事を始めました。やはり10年程のブランクはあるので、パートでの限られた時間での習得はなかなか難しいなと思っています。電カルの入力や医師事務としてのスキ

No	性別	住所	年齢	経歴	応募動機
					ルをアップしたいと思い今回応募しました。
16	女	仙台市	28	有	以前、歯科で働いており歯科以外の医療事務についても学びたいと思ったので今回応募しました。
17	女	仙台市	33	無	6月に医療事務の資格を取得しましたが、独学だった為、曖昧だった分野をこの機会に整理し、医療の知識をさらに高めたいと考え応募致します。
18	女	仙台市	27	有	これから高齢化がより進む中で、医療業界はますます人材が求められることと考えています。元々人のために必要となる仕事に就きたいという思いがあり、医療事務と調剤事務の資格を勉強し取得しました。しかしながら、医療に携わる仕事でも数多くの資格や知識の必要性を痛感致しまして、より広く深く知識を学びたいと思い応募致しました。
19	女	仙台市	59	有	病院事務を行うに当たり、必要な知識を習得したいと考えています。また、医療事務の資格を取ったのが、若い時であったため、制度等がだいぶ変わっており、再度、勉強したいと思い応募しました。
20	女	仙台市	33	有	以前より医療事務職に興味があり、10年前は勉強を途中で断念してしまい、今年また勉強する事ができ1. 2級の資格を取得する事ができました。ただ電子カルテの使用が増えてきている中、話に聞いたことがある程度、また看護師の負担が大きく不足しているというお話も聞くため、少しでも病院や患者様のためにも役にたてるよう勉強させていただきたく応募させていただきました。
21	女	石巻市	50	有	9月2日に申し込みをさせて頂きましたが、メールアドレスが間違っておりました。申し訳ございません。新たに応募致しますので、よろしくお願ひします。動機；震災まで、石巻市立病院で窓口受付をしておりました。現在は、エコチル調査（コホート調査）で研究のお手伝いをしておりますが、縁があり、11月からまた病院で働く予定です。それまでに、スキルを身につけたいと思い、応募致しました。
22	女	石巻市	50	有	以前にも申し込みましたがだめだったので再度申し込みします。これからの復興の為にレベルアップを図り人の役に立ちたいと思います。

No	性別	住所	年齢	経験	応募動機
23	女	仙台市	34	有	現在、看護助手の仕事をしております。患者さんとの関わり方、病院内のシステム、病院内の様々な職種の方々、色々分かるようになるにつれ、元々パソコンが好きな事もあり、病院内の「事務」のお仕事に、以前より強い興味を持っておりました。そんな折、偶然御講座の記事を拝見し、是非、この知識を自らの物とし、しっかり学ばせて頂きたいと、応募をさせて頂きました。一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。
24	女	仙台市	27	有	以前より、医療事務の仕事に興味があり通信講座にて医療事務の資格を取得いたしました。今回の養成講座ではより実践的で専門的な知識が学べるのではないかと思います応募させて頂きました。今までは接客や事務職を経験してまいりました。現在は、医師や看護師の方々のサポートができる医療事務の仕事で微力ながら人の助けになりたいと思いつつ就職活動をしております。是非、今回の講座で専門的なスキルを身につけて地域医療に貢献できる人材になりたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。
25	女	仙台市	30	有	現在、病院で業務に携わっておりますが、より深く医療事務について学びたいと思い今回の募集に応募いたしました。
26	女	仙台市	51	有	就職の範囲が広がる。自分の知識向上。
27	女	松島町	31	有	2年課程の医療専門学校卒業後、眼科診療所の医療事務として11年勤めましたが、閉院となりました。眼科外来のみ携わっていただけだったので、現在は他科の知識が乏しく、再就職にあたりちよほど勉強し直そうと思っていたところ河北新報の掲載を見て是非受講したいと思いました。
28	女	富谷町	35	有	今より知識を広げたいからです。
29	女	塩竈市	40	有	現在医師事務作業補助業務に携わった仕事についており、さらに知識を深め、今後の仕事に生かしていきたいと思ひ応募させて頂きました。
30	女	白石市	47	有	昨年28年働いた会社(製造業で品質管理の仕事)を希望退職し次の就職を考えた時、医療の仕事に興味があり知識を身につけたいと思ひ職業訓練で医療事務の資格を取得しました。(保険請求事務技能検定 医科と歯科、医事コンピューター能力技能検定、調剤報酬請求事務技能検定)更なるスキルアップをめざし医師事務作業補助者養成講座を受講して今後の就職に繋げてい

No	性別	住所	年齢	経歴	応募動機
					きたいと思い応募致しました。
31	女	大河原町	32	有	医師事務作業補助者で働きたかったので、どうしても資格を取得したかったから。
32	女	村田町	30	有	職業訓練で医療事務講座を学び、現在まだ就職に結びついていないのですが、母子家庭でこの先が不安なので今のうちに就職に1歩でも近づけるように、医師事務作業補助者を受講したいと思いました。
33	女	柴田町	35	有	これまで、16年間医療事務として働いて来ました。今年の4月に転職し、医師事務作業補助として働いていますが、今はまだ、見習い中の為に、医療文書作成等を一から作成した事が無く、また、来年から外来でも電子カルテ導入予定ですが、現在は検査のオーダーリングの確認を行う位で、カルテの代行入力は無経験です。是非とも、今後の仕事に活かしていきたいので、今回のこのような機会に学ばせて頂きたいと強く思い、応募させていただきました。どうか、宜しくお願いします。
34	女	柴田町	28	有	今年の6月末に6年間医療事務として勤めたクリニックを退職致しました。現在就職活動中ですが、こちらの募集を見て、次の職に就く前に更に医療現場で役立つ知識を身に付け生かしたいと思い、応募させて頂きました。
35	女	柴田町	33	有	現在、医療事務勤務しており、更にレベルアップをはかりたいと思い志望致しました。
36	女	岩沼市	41	有	現在、病院で受付事務として働いていますが、電子カルテにまだ移行していない為、今後の為に学びたいのと、自分の為にも視野を広げたいと思ったからです。
37	男	岩沼市	33	有	現在、クリニックで看護師として勤務をしている中で、医師が作成しなければならない文書が多様かつ煩雑になってきていると感じています。そのため、その医師を補助する看護師として、医療文書を作成できるようになれば医療技術以外の補助者としても機能できると考え、応募いたしました。
38	男	岩沼市	39	有	現在、海沿いの医療機関にて医師事務作業補助業務を行っております。震災時には、避難者対応を経験し、現在でも、被災者の方々対応をしております。今後の業務に対して、自分のスキルを上げたいと考え応募を致しました。

No	性別	住所	年齢	経験	応募動機
39	女	仙台市	44	有	前回受講し大変勉強になりました。今回は中級の講座なので、更に勉強をしたいと思い応募いたします。
40	女	大崎市	39	有	末の子供も来年には保育園に通わせることのできる年齢になり、私も就業しなくては。と考えておりました。随分遠い過去にはなりますが、医療事務を学んだことがあるという経験が無駄にはしたくないという思いと、現代に望まれている職種技能を身に付けたいと考えました。
41	女	登米市	41	有	以前より、医療文書作成と電子カルテ代行入力に興味があり、知識の必要性を感じながら業務についておりました。現在の職場では、電子カルテの導入はありませんが、自らのスキルアップの為に知識を身につけ、いずれ導入された場合又は他の医療機関で、今回学ばせていただいた事を、即業務に生かしたいとおもいます。医師・看護師不足を日々痛感しております。少しでも負担を軽減できる人材になれるように努力したいとおもっています。
42	女	栗原市	42	有	医療秘書や医療事務を学んだことがあり、調剤事務の資格を取得しております。現在は自治体病院の総務課に非常勤として勤務しておりますが、総合病院の医事課で仕事をすることがございます。その経験を活かし地域医療に貢献したいと思いました。
43	女	大崎市	39	有	新聞をみて応募しました。

3-2. 上級講座

①日 時

平成25年12月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日) 計4日

②会 場

東北保健医療専門学校

③参加者

宮城県内の受講者 合計30名

④カリキュラム等

医療に従事している方および医療関係に従事したことのある方を対象としたカリキュラムを設計。

また、医師事務作業補助者の登録要件に32時間以上の知識教育が定められており、授業時間数は2科目で28時間程度とし、自宅でのレポート作成、提出を4時間分相当として講座を展開した。

⑤実施時間

12/14	7時間	内訳：文書作成3時間	電子カルテ4時間
12/15	7時間	内訳：文書作成実技4時間	電子カルテ実技4時間
12/21	7時間	内訳：文書作成3時間	電子カルテ4時間
12/22	7時間	内訳：文書作成3時間	電子カルテ4時間

*なお、32時間に満たない時間数はレポート提出で補うことにした。

⑥科目別カリキュラム

◆12月14日

[午前]

09:00～10:00	講義	伊藤	医学の基礎知識、カルテ用語、略語
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	伊藤	薬学基礎、剤形、処方箋の記載方法
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	伊藤	文書作成の構成と手順、正しい文書の書き方

[午後]

13:00～14:00	講義	古川	I T化の流れと診療録の電子化への道
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義	古川	電子カルテの定義、機能
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義	古川	電子カルテシステム関連用語
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義	古川	業務処理フローと入力演習（診療所）

※第1回のレポート提出

◆11月15日

[午前]

9:00～12:00	講義	伊藤	要約、語彙、各種用紙の提出先
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	伊藤	200床以上の医療機関に多く使用される文書
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	伊藤	入院、退院、手術、検査同意書、生命保険用の記載

[午後]

13:00～14:00	講義	古川、伊藤	電子カルテの操作方法 手書の文書を入力
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義	古川、伊藤	電子カルテの用紙説明 文書の入力、処方箋作成
15:00～15:10	休憩		

15:10～16:00	講義	古川、伊藤	独自に作成した文書入力 入力した文書全員提出
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義	古川、伊藤	総復習

※第2回のレポート提出

◆12月21日

[午前]

9:00～10:00	講義	野田	医師事務作業補助者の概略
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	野田	医療情報システムの構成
11:00～11:10	休憩		
11:010～12:00	講義	野田	地域医療システムと遠隔医療システム

[午後]

13:00～14:00	講義	野田	電子カルテ演習問題（診療所：外来）第1号
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義	野田	電子カルテ演習問題（診療所：外来）第2号
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義	野田	電子カルテ演習問題（診療所：外来）第3号
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義	野田	電子カルテ演習問題（診療所：外来）第4号

◆12月22日

[午前]

9:00～10:00	講義	野田	医師事務作業補助者が必要とするコンピュータ用語 (ハードウェア、ソフトウェア)
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	野田	医師事務作業補助者が必要とするコンピュータ用語 (コンピュータで扱うデータ、データベース)
11:00～11:10	休憩		
11:010～12:00	講義	野田	医師事務作業補助者が必要とするコンピュータ用語 (ネットワーク、セキュリティ、情報セキュリティ)

[午後]

13:00～14:00	講義	柄沢	<ul style="list-style-type: none"> ●SOAPの記載方法の説明（まとめ）と設問練習 ※【配布資料】SOAPの記載方法 ●より上手な診療録等の書き方—POS— ※【配布資料】都立病院における診療録等記載マニュアル ●ソフト入力演習 ※【配布資料】「第2号 杉山康太」（問答形式） ※【配布資料】「第9号 三和秀樹」（問答形式） ※【配布資料】「第4号 小野郁子」（問答形式） ※【配布資料】「第6号 小山順子」（問答形式） ●総括：＜代行入力に求められる能力＞、 ＜医師事務作業補助者の遣り甲斐＞など
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義		
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義		
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義		

⑦ 講師

- ・医療文書作成 株式会社 NI メディカルオフィス 伊藤 典子先生
日本工学院八王子専門学校 野田 雅司先生
- ・電子カルテ代行入力 佐野日本大学学園佐野短期大学 古川 貴子先生
日本工学院八王子専門学校 野田 雅司先生

⑧ 受講募集および受講者数

参加募集は、河北新聞への広告掲載による方法で行った。結果、募集定員30名の募集に対し申込者数は46名の受講希望者を得ることができた。

⑨ 募集内容

- 講座：【上級】医師事務作業補助者養成講座
～宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成～
- 対象者：現在、医療に従事している方。医療事務を学んだことのある方。
- 受講料：無料
- 期間：平成25年12月14日（土）、15日（日）、21日（土）、22日（日）
9:00～17:00（休憩・昼食時間など含む） 計4日32時間
- 会場：東北保健医療専門学校

- 定員：30名
- 申込み方法：東北保健医療専門学校のホームページ
 - ・氏名・性別・年齢・住所
 - ・医療関連事務経験の有無
 - ・電子カルテ入力経験の有無
 - ・医療文書作成経験の有無
 - ・応募動機
- 締切り：平成25年11月30日（土）必着
- 募集方法：新聞広告・東北保健医療専門学校ホームページ
- 新聞広告等

文部科学省委託事業 東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業

医師事務作業補助者

上級養成講座

受講生募集!!

4日間
(計32時間)

受講料無料

医療文書作成	電子カルテ代行入力
診療所や200床以上の医療機関で 院内文書・院外文書を作成できる人材を養成	電子カルテ代行入力に必要な知識を ソフト実習で学ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ●DPCのカルテ内容を理解し、院内文書作成。 ●生命保険会社や傷病手当金等に必要 院外文書作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ●POS・POMRを理解。 ●SOAP形式によるカルテの記載等。

対象

- 現在、医療に従事している方
- 医療事務を学んだことのある方

定員 30名 ※応募者多数の場合は、選考の上、決定します。

期間 平成25年
12月14日(土)・12月15日(日)
12月21日(土)・12月22日(日)
時間 9:00～17:00 (休診・長時間等を含む)

申し込み方法 本校ホームページより 11月30日(土) 必着
お申込みください。
下記URLのバナーより受付しています。
<http://tmc.ac.jp/>

会場 東北保健医療専門学校
仙台市青葉区花京院 1-3-1



※期間中は公共交通機関をご利用ください。

(主催) 学校法人日本コンピュータ学園 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-3-1

東北保健医療専門学校

☎ 0120-150-730

(設置学科) 医療秘書科・医療情報管理科・理学療法科・作業療法科・介護福祉科

⑩講座応募者のプロフィール

男女別地域別応募者一覧

男子		女子		合計	
地域	人数	地域	人数	地域	人数
岩沼市	1	岩沼市	1	岩沼市	2
栗原市		栗原市	1	栗原市	1
多賀城市		多賀城市	3	多賀城市	3
石巻市		石巻市	2	石巻市	2
仙台市	3	仙台市	21	仙台市	24
大河原町		大河原町	1	大河原町	1
利府町		利府町	1	利府町	1
大崎市		大崎市	3	大崎市	3
松島町		松島町	1	松島町	1
登米市	1	登米市	2	登米市	3
東松島市		東松島市	1	東松島市	1
白石市	1	白石市	2	白石市	2
富谷町		富谷町	2	富谷町	2
地域合計	6	地域合計	40	地域合計	46

受講者応募動機等一覧

No	性別	住所	年齢	経歴	応募動機
1	女	大河原町	32	有	前回、中級を受けて見て良かったので、上級もぜひやりたいと思いました。
2	女	多賀城市	33	有	医師事務は機会があれば、受講したいと考えていました。東日本の震災もあり、医療事務の資格を今年4月に取得し、9月からリハビリ科病棟で働いています。ぜひ学びたいと思います。
3	女	仙台市	51	有	歯科で勤めており文書を作成する際、苦勞している。今後もドクター補佐の仕事をしたと考えており応募しました。
4	男	仙台市	44	有	より深く仕事を理解するため講座を受講することにしました。
5	女	仙台市	45	有	入力業務等これまでのスキルを活かしたいため。
6	女	東松島市	49	有	医療事務の資格を取得していて、現在求職中。通信制で学んだので実践的なことはしていないので、この機会に学んで知識を身に付けたい。仕事の選択の幅を広げたい。
7	女	仙台市	48	有	東京での同講座受講を検討していた際に、貴校の募集を拝見いたしました。短期間で集中して受講可能なチャンスを生かしたいという気持ちです。医療事務を在宅で勉強し、准看護師の資格を取得して就業しておりますが、医師事務作業補助者の必要性を実感しております。
8	女	仙台市	29	有	勤務先で電子カルテを使用。医師が紙カルテに記入し受付で事務員が入力しているが、今後は医師の隣で入力する可能性がでてきたので、作業補助の講座を受講し今後に役立てたいと思志望しました。
9	女	仙台市	47	有	身内に医者をしている者がおり、よく書類の整理に追われ本来の業務に集中できないと聞いております。そのため、少しでも手助けできればと思い応募しました。
10	男	仙台市	49	有	現在医療に携わっているが、単一的もしくは突発的なものが多く、幅広く知識を拡げ連携していきたいと考えており、医療にかかわる文書や電子カルテにおける理解が仕事をスムーズに進めていくうえで不可欠であると思っております。
11	女	仙台市	48	有	医師事務に関する知識をもっと詳しく学びたいと思志望しました。
12	女	松島町	32	有	前回、医師事務作業補助者(中級)養成講座を受講させていただきました。医師事務作業補助者の重要性を感じましたので、上

No	性別	住所	年齢	経歴	応募動機
					級も学びたいと思いました。現在、求職中ですので、次の就職で活かしたいと思います。
13	女	仙台市	33	有	医師事務作業補助を学び、医療事務の仕事の幅を広げ、実務に活かしたいと思志望致しました。スキルアップして一生医療事務の仕事が続けて行きたいと考えております。新しい事を積極的に吸収し、意欲的に取り組む所存でおりますので、何卒宜しくお願い致します。
14	男	仙台市	46	有	現在、医療機関に勤務をしております。看護師として医師の下で看護を行っておりますが、多忙である医師の補助者として文書の作成を行うことで、医師の全般的なサポートを行いたいと考え、応募いたしました。
15	女	仙台市	36	有	以前、医療事務の資格を取得しましたが、もう少し幅広い業務に役立てるような技術を身に付けたいと探していたところ、この講座が開催されることを知り、是非勉強したいと思応募致しました。習得した技術が震災復興に生かせるのは有り難いことと感じます。
16	女	仙台市	28	有	今年の4月から、東北大学病院で病棟クラークをしています。総合受付の診断書受付が毎日混んでいることから、病院側からの希望で、入院患者には病棟で診断書の受付をして、先生に依頼するまでの入力をクラークが行うことになりました。色々な種類の診断書に苦勞しています。また、忙しい先生方が一番困っている仕事が診断書作成です。今回の講座を受講出来たら、来年からもっと楽に仕事が出来ようになります。先生が診断書を簡単に作れるように「ひな型」をつくったり、アドバイスができるようになりたいです。また、医事コンピューターの資格も持っていますが、大学病院でも電子カルテの運用が徐々に始まっていて、本格運用までに新しい知識も覚えたいです。4日間休まず行きますので、受講出来ますようにお願いします。65歳の定年まで、仕事をするのが目標です。(ニチイでお仕事をしています。)
17	女	利府町	33	有	資格を活かして働きたいので、応募致しました。
18	女	仙台市	27	有	医療事務を学びましたが、現場で生かす機会がないままでした。今回の医師事務作業補助の業務内容を見て、窓口での業務とは

No	性別	住所	年齢	経験	応募動機
					また違い事務作業に重点を置いていることもあり、今回講座を受講し学ぶことで私がこれまで秘書的なことも含めた管理的な事務職の経験を生かせるのではと思い応募致しました。
19	女	多賀城市	59	有	現在、地方自治体でレセプト点検員をしていますが、更なるスキルアップのため、本講座（医師事務作業補助者養成講座[上級]）を受講したいと思います。 よろしくお願いたします。
20	女	仙台市	33	有	医療事務の資格をとり、その後4年間、診療所での勤務経験があります。子育てで中断しておりましたが一段落したため、また学びたいと思い、応募させていただきます。
21	女	仙台市	50	有	現在、歯科医院の受付として働いております。医療機関で働き始めて日数が浅く、今後医療機関で働く上で役に立つ講座だと思い、応募させて頂きました。講座を受講した後、職場にて医師のサポートを円滑に行えるように、懸命に勉強したいと思います。
22	女	仙台市	50	有	現在、看護師として仕事をしている。この間、患者さんの状態を SOAP で考え、問題点の把握などを行ってきた。更なるスキルアップを考え受講を希望した。
23	女	仙台市	34	有	電子カルテが少しずつ進む中、勉強をさせて頂き、自分の力、少しでも病院の力になりたいと思い応募させていただきます。 よろしくお願いたします。
24	女	仙台市	27	有	平成 22 年に、調剤報酬請求事務技能と、メディカルクラーク 2 級を取得したが、育児に忙しく働く事を断念せざるを得なかった。御社の広告を拝見し、子育ても落ち着いてきたので、新たに学習し、ステップアップしたいと思ったのが応募の動機です。
25	女	登米市	30	有	医療現場において文書作成に係る負担の多さを感じていたため今回この講座を受講し医師事務作業補助者として勤務したいため。
26	女	仙台市	51	有	前回、中級を受講しましたが修了証書は頂くことが出来ませんでした。よって、今回の受講を希望致します。
27	女	大崎市	31	有	今現在、外来クラークとして従事しており、身近に医療クラークがおり、仕事に魅力を感じ、また医療事務業務を更に学び知識を深めたい為応募しました。
28	女	大崎市	35	有	総合病院の外科外来窓口業務に携わっています。今後も医療機関での勤務を希望していますので、より幅広い知識とスキルア

No	性別	住所	年齢	経験	応募動機
					ップを目指したく今回応募致しました。宜しくお願い致します。
29	女	大崎市	40	有	現在医療機関に勤務しており、医療事務の資格もあります。新しく医師事務作業補助車という仕事があるということもすごく興味のある仕事で、是非この機会に受講を希望いたします。よろしくお願いいいたします。
30	男	白石市	47	有	医療事務の資格は持っていますが、再度ドクターズクラークの事を学んで、自分の医療事務の幅を広げたいと思い応募致しました。何卒、宜しくお願い致します。
31	女	仙台市	32	有	医療事務の資格はとりましたが、電子カルテを学習していなかったので今回の講習で病院勤務する事が実現できたなら幸いです。
32	女	仙台市	30	有	現在、医療機関で医療事務をしております。窓口で診断書を頼まれた方へ診断書をお渡ししておりますが、知識があれば良いなと思う時もあります。それから内部移動などで診療科に配属された時にも、貴校で学ばせて頂く勉強が活かされると思い、応募させて頂きました。よろしくお願いい致します。
33	女	白石市	35	有	前回の医師事務作業補助者養成講座の中級を受講しました。求人を見ると電子カルテを導入しているところは200床以上の病院なので、今後の就職を考えて上級を受講したいと思い応募いたします。
34	女	仙台市	28	有	これまでは入院受付でお仕事をしていましたが、12月から文書受付に移動になるので、勉強させて頂きたく応募致しました。
35	女	栗原市	33	有	医療秘書や医療事務を学んだことがあり、また前回医師事務作業補助者（中級）養成講座を受講させていただいた際さらに専門性を高めたいと思い応募に至りました。ご検討くださいますよう何卒宜しくお願いい致します。
36	男	登米市	41	有	現在、在宅診療専門のクリニックで勤務しております。在宅診療専門のため、カルテはすべて電子カルテです。診療に同行し、SOAPでカルテ記入をしております。その都度、医師からは専門用語や書き方のレクチャーを受けていますが、貴講座でSOAPでのカルテ記入を身につけたいと考えております。
37	女	登米市	33	有	在宅診療専門のクリニックで勤務しております。在宅診療専門のため、カルテはすべて電子カルテです。診療に同行し、SOAP

No	性別	住所	年齢	経験	応募動機
					でカルテ記入をしております。その都度、医師からは専門用語や書き方のレクチャーを受けていますが、貴講座で SOAP でのカルテ記入を身につけたいと考えております。
38	女	石巻市	39	有	私はずっと興味があった医療事務として働くため、昨年長年続けてきた販売仕事を退職して市の職業訓練を受講し資格を取得しました。しかし、いざ就職活動を始めると事務職としての経験がないため、医療事務として就職することができず、今は少しでも事務の経験となればと思い、市の市役所で臨時職員として働いております。そのため、自分自身もっと医療事務の知識を身に付けスキルアップしたいと思い、このたび応募させて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。
39	女	富谷町	44	有	以前医療事務や介護の現場で働いたことがあります。自分の健康面を考えるとパソコンを使用した事務職が適していると思い応募しました。応募する方は大勢いると思いますが来春の就職活動に向けて勉強したいと思っていますので宜しくお願い致します。
40	女	石巻市	39	有	前回受講しました。大変親切にご指導いただき充実した時間を過ごすことができました。学ぶ時間が足りなく感じました。今回も参加して仕事に就いた時に学んだ事が生かせるように知識を深め復興の役に立ちたいと思いました。
41	女	多賀城市	41	有	将来の職業上のスキルアップのために。
42	女	仙台市	42	有	現在医療機関で働いており、医師事務として今後のスキルアップを目指したい為。
43	女	富谷町	39	有	年齢的に無理かとも思い躊躇しておりましたが、自分がスキルアップすることにより、お手伝いできることができればと思い応募させていただきました。よろしくお願い致します。
44	男	岩沼市			現在、医療事務作業補助者として勤務しており、これから業務を発展させるためのスキルと電子カルテの導入に向けての知識を得たいと考え応募いたしました。
45	女	岩沼市			前回、中級講座に参加させていただきましたが、覚えが悪く追いつけない部分もあったので、もう少し学びたいと思い参加を希望します。
46	女	仙台市			東京都内にある約 300 床の総合病院のカルテ室で 4 年、同じく都内の約 1000 床の大学病院の診療録管理室で約 9 年、派遣

No	性別	住所	年齢	経歴	応募動機
					<p>として職員の補助業務と契約社員として事務業務をしてまいりました。今年3月に退職し地元仙台へ戻り、現在求職中です。</p> <p>以前から医師補助業務に興味があり、機械があればぜひやってみたく思っていたものの、就業中には異動や学習する機会に恵まれず、これから学校に入るのも、と病院への再就職断念も考えていたところに講座募集の記事を拝見しもし学ばせていただけるのなら、とダメ元で応募しました。</p> <p>医療事務は15年ほど前に派遣会社で学んだきりなので、DPCうあレセプト業務の経験はありません。ですが、前職就業中の6年前に診療情報管理士の資格を取得し、また、前職では電子カルテ内の日々の記載チェックも日常業務で行っておりました。上級講座ということと応募条件から逸れている心配がありますが、可能でしたら受講の機械を与えていただけると光栄です。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>

3-3. 医師事務作業補助者学生講座

①日 時

平成26年1月20日(月)

②会 場

東北保健医療専門学校

③参加者

東北保健医療専門学校医療秘書科・医療管理科 学生18名

④講習目的

医療文書作成を医師に代わって入力できる人材育成を目指す。

⑤カリキュラム等

時間	教科	内容
10:25~11:35	文書作成の基本	文書の基本構成
昼休み		
12:35~13:45	カルテの型	SOAPの意義、類音語
14:00~15:10	文書作成の手順	提出先の意義、要約、語彙
15:25~16:35	診断書、生命保険給付金請求書等	文書作成

⑥講 師

株式会社NIメディカルオフィス 伊藤 典子先生

3-4. 医師事務作業補助者育成教育教員研修会

①日 時

平成26年1月25日（土）

②会 場

東北保健医療専門学校

③参加者

6名

④講習目的

医療系教育機関等で教員として教育経験のある方および医療系教員を目指す方を対象者として、医療文書作成を学ばせる教員のノウハウを学ぶ。

⑤カリキュラム等

教員研修		カリキュラム	内 容
1	9:00~10:00	ガイダンス 学習到達目標 学習内容・学習目標 評価方法	①文章から主旨を把握する ②学習は読む、聞く、まとめる ③相違点を指摘する ④異なる意見文を読み比べる
2	10:10~11:00	医学の知識 薬の基本知識	①医療用語 ②類音語 類義語 ③文書作成に必要な医学、薬学
3	11:10~12:00	文書作成 1	①要約 ②語彙 ③類異語 ④カルテ（読む。書く、解釈） ⑤文書の構成と書く手順 ⑥要約文の書き方
	12:00~13:00	休憩 （昼休み）	
4	13:10~14:00	文書作成 2	①各種書類の提出先 ②診断書の種類 ③診療情報提供書 ④提出先の意義
5	14:10~16:00	文書作成 3	文書作成 実技

6	16 : 10～17 : 00	総まとめ	指導項目の確認
---	-----------------	------	---------

⑥講 師

株式会社 NI メディカルオフィス 伊藤 典子先生

3-5. e-learning 検証

①日 時

平成26年2月3日 (月)

②会 場

東北保健医療専門学校

③参加者

東北保健医療専門学校医療秘書科・医療管理科 学生8名

④目的

今年度開発した e-learning システムの検証。

⑤カリキュラム等

時間	内容
10 : 25～10 : 30	当プロジェクトの概要説明
10 : 30～10 : 35	サイトの利用方法の説明
10 : 35～10 : 55	iPad での利用
11 : 00～11 : 20	PC での利用
11 : 20～11 : 35	アンケート記入

⑥講 師

イトス株式会社 新沼 渉先生

4. 講座実施結果

4-1. 中級講座 アンケート集計結果

「宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業」 医師事務作業補助者講座＜中級＞アンケート結果

◆プロファイリング

実施日：平成25年9月21日（土）、28日（土）、12月5日（土）、12日（土）

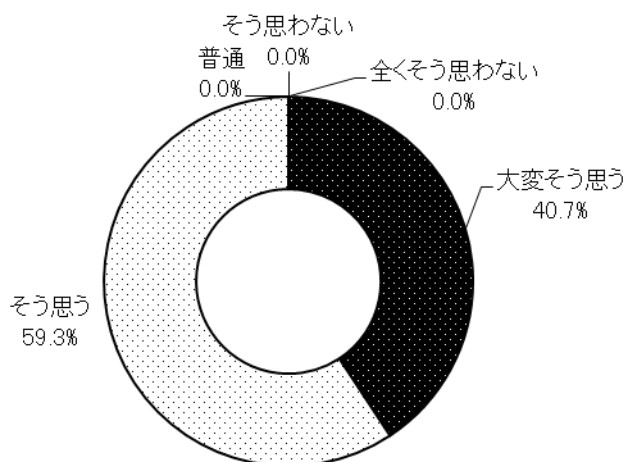
場 所：東北保健医療専門学校

対象者：32名

◆アンケート結果（回答者27名）

1. 今回の講座全体を通して、将来に役立ちそうな内容でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	11	40.7%
2	そう思う	16	59.3%
3	普通	0	0.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	27	100.0%



《理由》

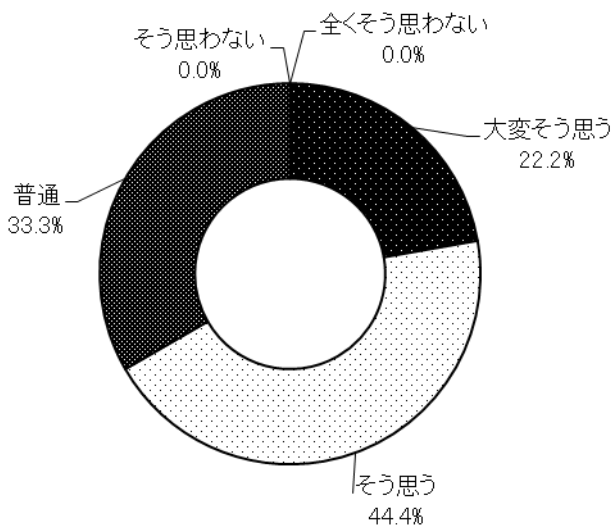
- ・今後、電子カルテを使用する病院が増えていくとよいが、求人が少ないのが残念です。講座の内容はとても役に立つと思います。
- ・現在の仕事に関係しているので。
- ・病院で働いてもその担当にならなければ、文書作成等に関わる内容を学ぶことができなかった。
- ・医療に従事する上での専門的な知識や社会常識を踏まえ、これからの将来へ向けて大変役に立ちそうです。
- ・教科書の内容だけでなく、実際に医療現場で使用するおPCで学べたのでよかったです。
- ・今後、医師事務作業補助者の試験を受けようと思っているため。電子カルテ使用時のイ

メッセージがつかめた。

- ・内容は役に立つことでしたが、身につけなかったのが役立たないと思う。
- ・書類の作成や、医療の法律など、現場で役に立つ事が学べた。
- ・盛りだくさんの内容だったので、有意義に受講させて頂きました。
- ・医師事務作業補助者が増えれば、医療現場はもっと円滑に進み、これから必要とされる職業だと思いました。
- ・日々業務に携わっている診療情報提供書等、視点を変えて学ぶ事ができた。
- ・今後需要が高まりそうな職種だから。
- ・電子カルテの入力等、実践的な内容が多かった。
- ・来月から病院勤務なので、電子カルテがとても身近に感じられた。
- ・沢山のことを学べたので、就職以外でも役に立つ内容でした。
- ・電子カルテの導入が増えてきているため。
- ・とても役立つと感じました。
- ・現場でも役立てられそうです。
- ・今後、電子カルテが導入される予定なので、勉強になりました。
- ・パソコンで実践出来たので良かった。
- ・勤務先が春から電子カルテになるので事前に学習できて良かったです。診断書の作成も全然分からなかったのがとても良かったです。
- ・現在勤務しているクリニックで、実際に文書作成補助を行っていくので、役立つと思いました。
- ・今後必要とされる業務であると考えられる。
- ・おおまかな感じですがパソコンの使い方が理解できました。
- ・現代のシステムにおいては、必要な業種である事を実感しました。

2. 講座の内容は、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	6	22.2%
2	そう思う	12	44.4%
3	普通	9	33.3%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	27	100.0%



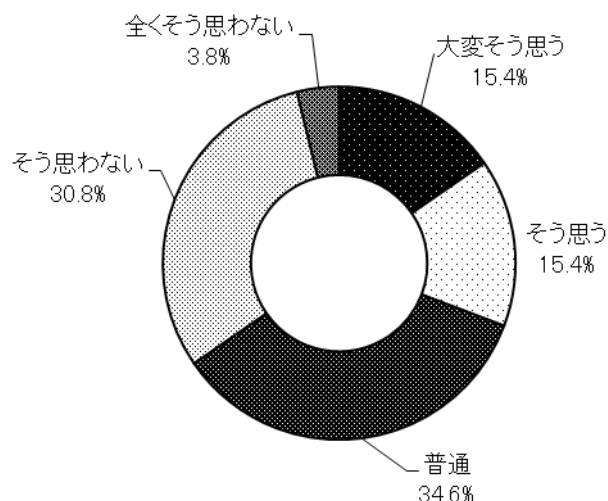
《理由》

- ・おおむね理解はできたと思う。忘れないよう教材で復習したいと思います。
- ・わかりやすく説明していただきました。
- ・時間が足りなく、全体を学んだか心配がある。
- ・教材の他にプリントを準備してくださり、大変有り難く、理解を確かめることが出来ました。
- ・毎回、わかりやすくポイントを示していただいたので、学習しやすかった。
- ・わからない所もあったから。
- ・スタートの段階で個人差があった為、ついていくのが少々大変でした。
- ・もう少し時間をかけて学びたいと思いました。
- ・短時間に要点をピックアップして教えて頂き、理解につながりました。
- ・講師の方々の話すスピードが丁度よく、理解できた。
- ・医療事務を勉強していたことで理解しやすい部分もあった。
- ・その時は理解出来ても、1週間たつと忘れてしまいます事もあった。
- ・丁寧に教えて頂けたので、理解することができました。
- ・授業のペースが少し早い気がしましたが、自分なりに理解できたかと。
- ・とてもわかりやすく教えていただいたと思います。
- ・ゆっくりでわかりやすかった。
- ・先生方が分かりやすく説明して下さり助かりました。
- ・忘れてた部分を思い出せて良かった。
- ・なかなか追いつかず大変でした。特にパソコンが。
- ・どの講義も分りやすく教えていただきました。
- ・限られた時間の中だったので、急ぎ足のような感じもありましたが、先生方は大変親切に指導して頂きました。

- ・不安は残りますが、どんな「作業」なのかを理解できました。

3. 講座の内容に対して、時間配分は適切でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	4	15.4%
2	そう思う	4	15.4%
3	普通	9	34.6%
4	そう思わない	8	30.8%
5	全くそう思わない	1	3.8%
	合計	26	100.0%



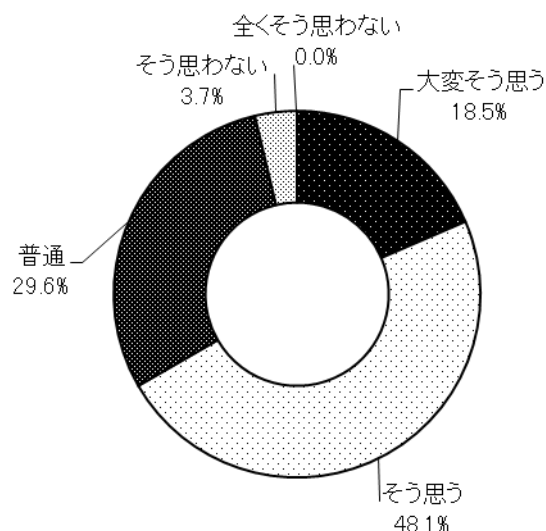
《理由》

- ・専門用語についてももう少し時間があるとよかった。電子カルテももう少し勉強したかった。
- ・限られた時間内で終わることができたので、よかった。
- ・今回初めて参加したのでなんともいえないが、実技の時間を多く欲しいと思った。
- ・受講生を思いやり、かなりわかり易く説明していただき、時間配分は適切でした。
- ・もっと深く勉強したいと思いました。やや駆け足での講座だった様に感じられました。
- ・短時間で、要点を絞っておしえていただけただけなのは良かった。ただ、授業がおもしろかったのも、もっと受けたかった。
- ・PCの作業にもっと時間が欲しかった。
- ・科目の進むテンポが良い。
- ・短期間の上に、週に1度と感覚があいた為、若干の不安は残りました。
- ・内容が多いのもっと時間が欲しかったです。
- ・学科 (AM)、実技 (PM) のバランスが良く、1日があっという間でした。
- ・もう少し時間をかけて受講できると、更に理解ができたと感じる。
- ・短い時間ではあったが、とても内容が濃かったと思う。
- ・1日講義ではなく、午後は入力なので授業にメリハリがあり、あきずに参加出来た。
- ・最終日の内容はもっと時間をかけて教えていただけたら良かったと思いました。
- ・できれば、もう少し時間がほしい。
- ・短い時間、深い内容でした。もっと時間があつたらと思います。

- ・飛ばし過ぎて、基本の理解（医療事務）が有る人と無い人では、大分苦勞の差が出たと思います。
- ・もう少し日数が多いと、より理解出来たかと思います。
- ・午前中の授業のペースが早くて、もう少し時間が欲しかった。パソコンの授業は、問題をもう少しやりたかった。
- ・限られた時間内で先生方に感謝です。
- ・ずっと受講していて、丁度良いと思いました。
- ・限られた時間の中だったので、急ぎ足のような感じもありましたが、先生方は大変親切に指導して頂きました。
- ・コンピュータになれていないので、時々ついていけなかった。後半はなんとか大丈夫でした。
- ・もう少し長期でのカリキュラムだと理解しやすい。

4. 講座でを使用した用語などは、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	5	18.5%
2	そう思う	13	48.1%
3	普通	8	29.6%
4	そう思わない	1	3.7%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	27	100.0%



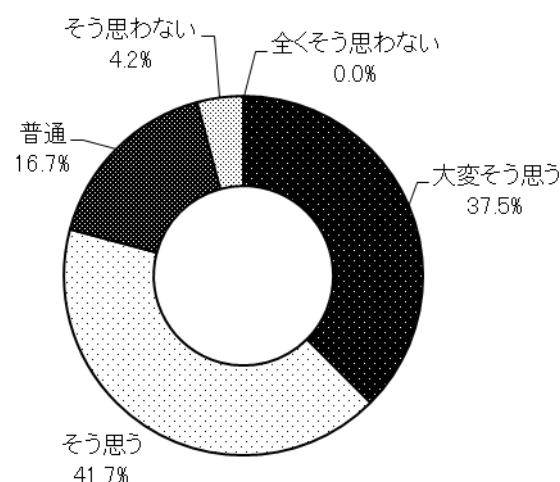
《理由》

- ・専門的な用語について、わかりにくいので、自主的に勉強した方がよかったかなと思いました。
- ・専門用語は難しいと思いました。
- ・先生方が例題を出し、教材で調べたり、常識や医学用語を思い出しながら取り組み、更に良く理解できました。
- ・後で復習し、より確実な知識にしたいと思う。
- ・理解する以前に字が読めなかった。
- ・先生の説明がわかりやすい。

- ・用語集も活用できそうですが、講義中にテキスト以外の言葉等も教えて頂くためになりました。
- ・初めての用語も出てきたので、理解するにはもう少し自分で学習したいと思います。
- ・日々使っている用語の再確認ができました。
- ・難しい医療用語の説明があったので、理解できた。
- ・用語集もあり理解しやすかった。
- ・とてもわかり易く説明をいただいたので、用語は理解できたと思う。
- ・その都度、教えていただけたので理解できました。
- ・とてもむずかしい漢字で説明を受けて理解できました。
- ・漢字の読み等、難しいものもありました。
- ・分かるのと分からないのが半分半分でした。
- ・詳しく説明して頂いたので良かったです。
- ・特に難しいとは感じませんでした。
- ・ほぼ出来ました。
- ・難しい語句の解説があり、助かりました。

5. 講座内での解説は、わかりやすかったですか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	9	37.5%
2	そう思う	10	41.7%
3	普通	4	16.7%
4	そう思わない	1	4.2%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	24	100.0%



《理由》

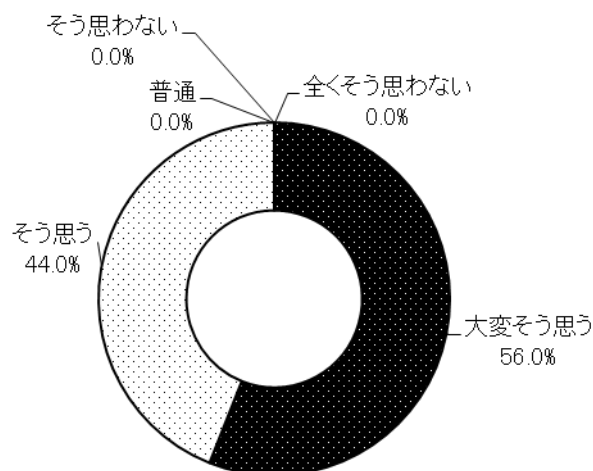
- ・説明がわかりやすかった。
- ・丁寧に指導していただきました。
- ・先生方が受講生の為によく説明と解説が有り、わかり易かったです。
- ・特にPCを使った講座では、一人一人の質問に答えてもらえ、全員が理解できるまで教えて頂きました。
- ・PCの入力の手順がわからなかった。何の作業をするには○→○というようなマニュアル

ルが欲しかった。

- ・先生の授業が丁寧。
- ・個人個人にも対応して頂き、とてもわかりやすかったです。
- ・自分自身の勉強不足です。
- ・わかりやすい言葉を使用して頂き、理解を深められました。
- ・わかりやすい言葉で説明して頂いたので、理解できた。
- ・要点がはっきりしていて、テキストの内容に沿っていて理解しやすかった。
- ・例を変えてお話していただいたので、わかりやすかったです。
- ・内容が理解できました。
- ・経験がなくても理解できました。
- ・先生方が親切に教えて下さったので良かったです。
- ・講師によって説明がわかりづらい人がいた。
- ・詳しく説明して頂いたので。
- ・時間をかけて解説していただきました。
- ・パソコンの指導は丁寧にしていただきました。
- ・スピードが早い中で、要点指導が良かった。

6. 医師事務作業補助者について理解が深まりましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	14	56.0%
2	そう思う	11	44.0%
3	普通	0	0.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	25	100.0%



《理由》

- ・実際に説明を受けてみて、理解が深まりました。
- ・実務に生かせると実感いたしました。
- ・現在の内容とは違うことを学ぶことができた。
- ・医療秘書の事と認識しました。
- ・受講前はなんとなくしか分からない職種でしたが、今回の講座を受けて、医療現場に必

要な仕事なのだと実感しました。

- ・テキストがわかりやすいから。
- ・あいまいでしたが、仕事の内容も理解できました。
- ・医療を円滑にするために必要な職業だと思います。
- ・業務内容等、よくわかりました。
- ・「医師事務作業補助」という職業を今回初めて聞いたので、よく理解できた。
- ・電子カルテや文書作成を実際行ってみて、より理解できた。
- ・わからなかった点も、くわしく説明していただけたので理解できました。
- ・医療機関で必要な仕事と感じました。
- ・具体的に気をつけるべき点がわかった。
- ・今後の仕事に役に立ちそうな内容でしたので、理解も深まりました。
- ・まだまだ勉強しなければいけないと思いました。
- ・全く経験がないので、自分にプラスになりました。
- ・講義を受けていく中で少しずつ理解できました。
- ・病院にとってのプラスのみではなく、患者にも待たずに済む等の良い面がある、大切な職種だと思います。

7. 講座の中で、「興味を持てた」または「将来役に立つ」と思った箇所はどこでしたか。

- ・診断書など要約の仕方。
- ・電子カルテの操作方法。
- ・電子カルテの入力および理論。
- ・医療関連法規。
- ・文書作成。
- ・文書作成
- ・電子カルテ入力代行。
- ・POS。
- ・SOAP。
- ・電子カルテ。
- ・文書作成を実際に行った点。
- ・文書作成で、要約する部分です。
- ・第2節の医師法
- ・文書作成の分担が実践的で興味を持ってました。
- ・電子カルテの授業です。

- ・電子カルテ代行入力。
- ・診断書作成。
- ・電子カルテの代行入力や文書作成の実務
- ・電子カルテの入力の仕方。
- ・文書作成。
- ・診断書等の入力方法。
- ・要約の仕方について。
- ・SOAPや入力の方法など。
- ・文書入力、SOAPなどこれから役に立つと思います。
- ・診断書など文章を入力する際のポイントがつかめた為。
- ・医療用語。
- ・電子カルテのSOAPや診断書の作成業務です。
- ・やはり、医師事務作業補助者の資格が欲しくなりました。
- ・電子カルテ、診断書作成、すべてです。
- ・特に文書作成の講義です。
- ・パソコンを使っでの学習は大変ながらおもしろく、楽しく出来ました。
- ・文書について理解が深まった。
- ・文章のまとめ方は、どんな分野にも役立つと感じました。

8. 今回の講座の中で、もっと深く学習したいテーマは何ですか。

- ・文書能力。
- ・電子カルテの入力。
- ・医療関連法規。
- ・電子カルテ。
- ・さまざまな文章の作成方法、ルール等。
- ・電子カルテの画像
- ・文書作成に興味があるので、更に学習したいと思います。
- ・文書作成。
- ・オーダー入力。
- ・電子カルテ、特にSOAPの記入方法について。
- ・文書作成。
- ・文書作成について。
- ・文書作成。
- ・電子カルテ、文書入力をもっと勉強したかったです。

- ・ 文書入力や電子カルテの入力をもう少ししてみたかった。
- ・ SOAP、診断書、紹介状の書き方。
- ・ 診断書をもっと、いろいろな種類作成してみたかったです。電子カルテのSOAP入力をもう少し体験したかったです。
- ・ 実践的な入力。
- ・ 診断書、一通り学習したかったです。
- ・ 幅広い文書の作成。
- ・ 演習を何回も繰り返し、覚えたいと思いました。
- ・ 文書書き方について。

9. その他、何でもご意見をお書きください。

- ・ 講座の時間をもう少し増やしてもいいのではないかな。
- ・ 今回は、関係者機関をはじめ先生方におかれましては、このような機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。学んだことを仕事や日常生活にも生かせるよう、知識を深めていきたいと思えます。次回上級講座が開催される予定があるのでしたら、また参加させていただきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・ 大変お世話になり、有難うございました。
- ・ 短い期間でしたが、今後に生かせる講座内容だったと思えます。上級クラスがあれば、ぜひ参加させていただきたいです。ありがとうございました。
- ・ 今回、ある程度知識のある方はPC作業は楽に出来たようですが、私は全く出来ませんでした。もっと、わかりやすい授業をして欲しかったです。
- ・ もっと現場の意見、情報が知りたかった。
- ・ 今回このような貴重な体験をさせて頂き、心より感謝いたします。今後、業務に生かしていける様努力します。資格取得を目指したいと思えます。
- ・ 短い時間の中で、いろいろ多くの事を教えて頂き、ありがとうございました。検定試験の情報もいただけると大変助かります。
- ・ 4日間とても充実した内容の勉強が出来ました。ぜひ今後活かしていきたいです。ありがとうございました。
- ・ 今回このような講座に参加させていただき、本当にありがとうございました。
- ・ もう少し時間があれば、よいと思う。
- ・ 4日間受講させて頂きありがとうございました。
- ・ 貴重な機会をあたえて頂きありがとうございます。
- ・ 医療機関に勤務していますが、(事務系)医療事務経験はゼロなので、授業についていくのが非常に辛かったです。こちらの授業で習った事をさらに家でも復習して、クラークを目指したいと思えます。第1週、第2週の午前中の授業は面白かったです。

- ・今回、修了した後に、今後はどのような進路があるのかなど説明して頂けるとよかったです。
- ・また、機会がありましたら、ぜひ参加させて頂きたいです。ありがとうございました。
- ・欲を言えば、もっと時間がほしかったです。
- ・今までお世話になりました。ありがとうございました。
- ・補講して頂けると、大変有難いです。

4-2. 上級講座 アンケート集計結果

「宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業」
 医師事務作業補助者講座<上級>アンケート結果

◆プロファイリング

実施日：平成25年12月14日（土）、15日（日）、21日（土）、22日（日）

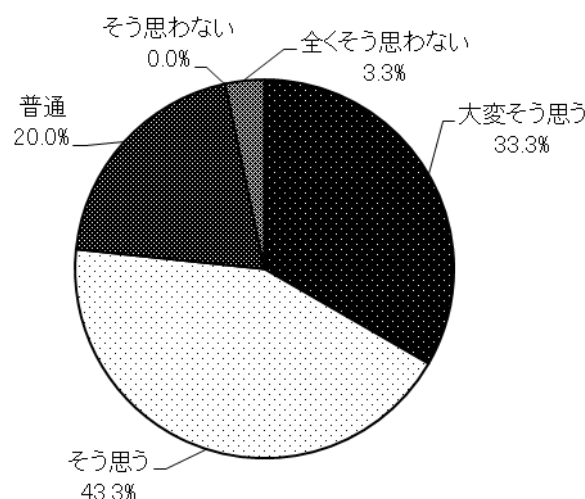
場 所：東北保健医療専門学校

対象者：38名

◆アンケート結果（回答者30名）

2. 今回の講座全体を通して、将来に役立ちそうな内容でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	10	33.3%
2	そう思う	13	43.3%
3	普通	6	20.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	1	3.3%
	合計	30	100%



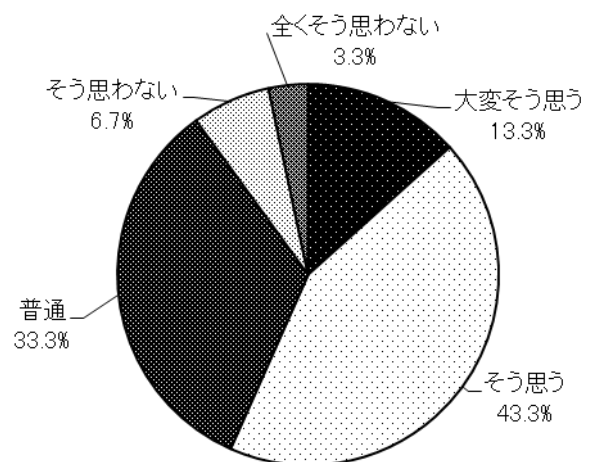
《理由》

- ・前職（診療情報管理士）の頃からとても興味があったので、より身近に感じられ実践も参考になりました。
- ・幅広く学べたところ。
- ・これからの医療や介護において、文書作成は多くなり、医師だけではこなしきれないと思う。
- ・サポートするコメディカルが必要だと考えます。
- ・医師事務作業補助者という仕事を初めて勉強したので。
- ・看護師の仕事に一杯一杯なので、正直現実的ではないと思う。
- ・現在は医療事務で外来算定業務をしておりますが、患者様から診断書について聞かれたり、カルテを見る時も前よりしっかりと対応できると思います。

- ・ 今後、宮城県内での医療機関でもこのような職種がとても必要になってくると講座を通して思いました。
- ・ 業務に使えるものであった。
- ・ 日常、医療分野について仕事をしていないので用語についてなじめなかったです。
- ・ 医師の仕事を代行できる知識を求められているため。
- ・ 医師事務作業補助者について知らなかった。
- ・ 業務内容を学ぶ中で医療に対する興味が深くなった。
- ・ この仕事に興味を持ちました。
- ・ 医療関係に深く興味を持ちました。
- ・ 将来的に医療の方へ進みたいため。
- ・ 仕事上使えそうだから。
- ・ 体験は出来たが、あくまでも体験だということ。
- ・ もっと長時間で深いところまで学びたかったです。
- ・ 電子カルテの操作を練習することはなかなかできないので、とても有意義でした。

2. 講座の内容は、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	4	13.3%
2	そう思う	13	43.3%
3	普通	10	33.3%
4	そう思わない	2	6.7%
5	全くそう思わない	1	3.3%
	合計	30	100.0%



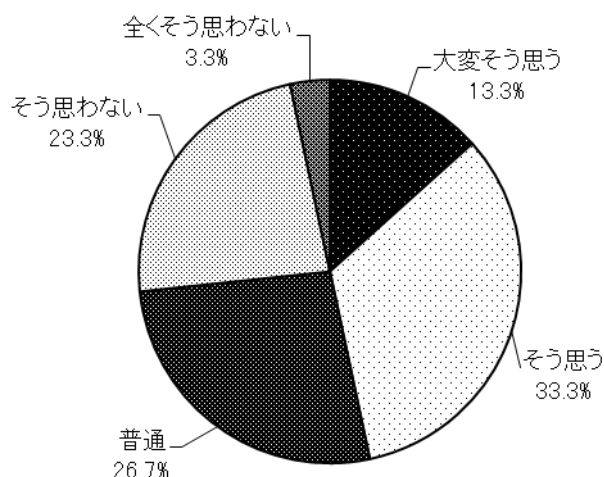
《理由》

- ・ レセの知識が殆どないので苦戦しましたが、全体的に分かりやすかったです。
- ・ 中級も学べたので。
- ・ これからの部分もあるが、基本は理解したつもりです。
- ・ 少しスピードが速くてついていけないところがありました。
- ・ パソコンの専門用語や機器の操作はとても苦勞した。
- ・ 難しいところもありましたが、先生方の丁寧な講座で理解することができました。
- ・ 講座を受講させて頂き、レベルの高さに驚きました。私自身これからもっともっと知識を身につけなければと思いました。

- ・専門用語が難しかった。
- ・日常、医療分野について仕事をしていないので用語についてなじめなかったです。
- ・スピードが速かったが、無駄はなく充実して身についた。
- ・資料などが分かりやすく作られていた。
- ・書類の方が難しかったので。
- ・大変詳しくかったです。
- ・何度かパソコンを操作して理解できた。しかし実務が必要。
- ・説明が分かりやすかった。
- ・2日目の講師の先生はすごく分かりやすかった（PC）。
- ・ある程度までは理解できたと思います。

3. 講座の内容に対して、時間配分は適切でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	4	13.3%
2	そう思う	10	33.3%
3	普通	8	26.7%
4	そう思わない	7	23.3%
5	全くそう思わない	1	3.3%
	合計	30	100%



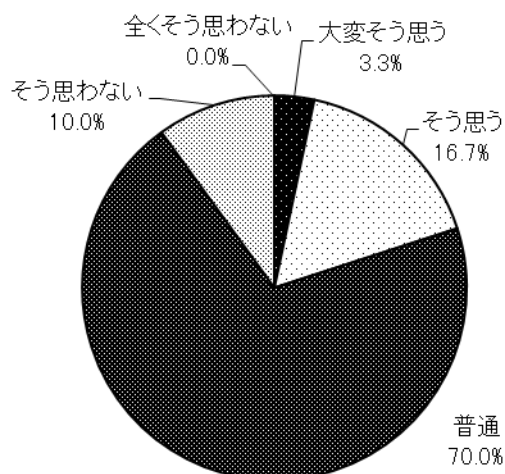
《理由》

- ・やや短いと思います。きつくなりますが、倍の時間が欲しいです。
配分としては充分でした。
- ・伊藤先生の講義の時、途中で終えたものもあるので（プリント）。
- ・十分な休憩を取っていただきました。
- ・実技は時間が足りないくらいだった。
- ・文書作成は自分が出来なさすぎであつという間に思えました。
- ・とても駆け足のように感じたので、もう少し時間に余裕があればなお良かったのかなと思います。
- ・日常、医療分野について仕事をしていないので用語についてなじめなかったです。
- ・テキストを事前に予習したかった。
- ・丁度良い。
- ・もっと時間が欲しいです。

- ・少し急ぎ足でした。
- ・休憩時間を設けてくれて分かりやすかった。
- ・理解するまでは4日間は無理。
- ・十分理解するには足りなく感じました。
- ・足りませんでした。
- ・日数が足りないように感じました。
- ・パソコンの操作はどうしても時間がかかるので、配分としては妥当なのかもしれませんが、条件の設定などは問題毎に入力するのではなく、事前に入力しておいてもらえると楽に進むのではないかと思います。

4. 講座で使用した用語などは、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	1	3.4%
2	そう思う	4	13.8%
3	普通	21	72.4%
4	そう思わない	3	10.3%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	29	100.0%



《理由》

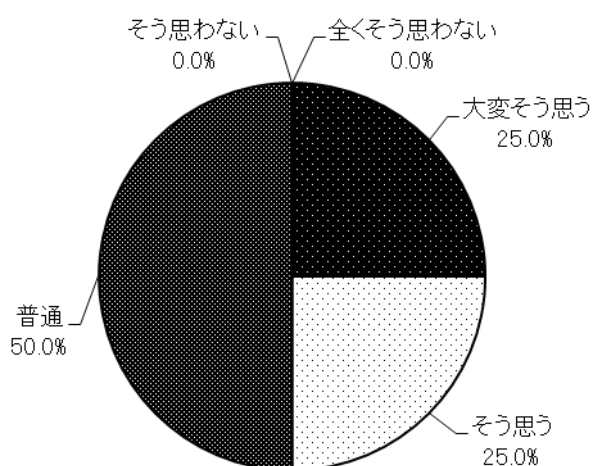
- ・薬剤職情報の理解が足りないなので、用語集に載っていれば良かったと思いました。
- ・中級も学べたので。
- ・元々、医療事務の実務も資格もある身として、復習させていただきました。
- ・医療用語は理解できたが、パソコン用語は理解できなかった。
- ・だいたい理解できた。
- ・まだまだ勉強不足の為、これからしっかり学んでいきたいと思います。
- ・日常、医療分野について仕事をしていないので用語についてなじめなかったです。
- ・看護師ではあるが、事務的な用語は医療事務を実務していなければ結びつかないから。
- ・分からない用語も多かったので、今後勉強したいと思います。
- ・これからもっともっと勉強したいと思います。
- ・これからテキストを使用して学習します。
- ・医科のことは勉強していないので、単語が分からないことが多かった。(私は歯科医院勤

務なので)

- ・SOAPに関しては何となく…。
- ・PCの使い方、用語が意味不明なところが多い。
- ・70%ぐらいは大丈夫でした。
- ・分からない用語が多い。
- ・難しい用語は特になかったと思います。

5. 講座内での解説は、わかりやすかったですか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	7	25.0%
2	そう思う	7	25.0%
3	普通	14	50.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	28	100%

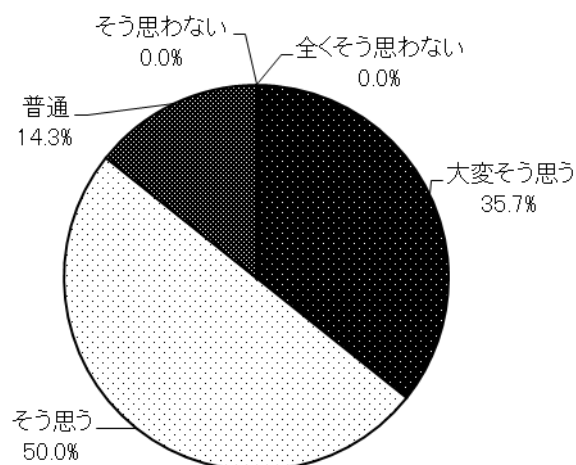


《理由》

- ・とても贅沢に学べたと思います。
- ・不明なところは丁寧に教えていただきました。
- ・古川先生の授業が早くて分かりづらかった。
- ・前半スピードが速くてついていけない時もありましたが、後半にすごく分かりやすくてよかったです。
- ・内容による。
- ・分かりやすかった。
- ・診断書等は難しい。
- ・日常、医療分野について仕事をしていないので用語についてなじめなかったです。
- ・指導者の方たちの熱意が伝わってきました。
- ・貴重な講座でした。
- ・分かりやすかったです。
- ・2日目の先生は進み具合は速いが、しっかりと教えてくださった。
- ・前半2日間は分かりにくかった。
- ・講師の方により理解度に差があった。

6. 医師事務作業補助者について理解が深まりましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	10	35.7%
2	そう思う	14	50.0%
3	普通	4	14.3%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	28	100%



《理由》

- ・前職の他部署に実務者の方がいたのですが、勝手なイメージがついていたので今回を機会によく理解できました。
- ・前述しましたが、医師だけでは大変になる文書作成やコンピュータを苦手とする医師もいることからサポートするメディカル的重要性があると思います。
- ・看護師として事務方の苦労も少しは分かった気がした。
- ・理解できた。
- ・講座に参加してから仕事内容を理解しました。
- ・クランクなのか秘書なのか、何ができるのか具体的に分かった。
- ・ネットを見てみたいです。
- ・どのような仕事なのか、DVDを見ることができたから。
- ・大変な仕事だと思う。
- ・どのような仕事であるか理解ができました。

7. 講座の中で、「興味を持てた」または「将来役に立つ」と思った箇所はどこでしたか。

- ・書類作成（まとめ方）。
- ・SOAPの要点の見極め方。
- ・長年医療事務から離れていたのが大変心配でしたが、できれば定年まで働ける所をパソコン事務で気長に探していこうと思います。

- ・ I T の知識。
- ・ 電子カルテ。
- ・ 電子カルテの動きを理解できたところ。
- ・ カルテ代行入力。
- ・ 電子カルテを実際に使った授業。
- ・ 文書作成。
- ・ この職種について詳しく学ぶことができました。
- ・ 病院での業務が少し分かった。
- ・ 資格についての勉強方法。
- ・ 将来の予想図ができた。
- ・ 先生方のお名前より、著者を読みたいと思った。
- ・ 電子カルテの代行入力。
- ・ 電子カルテの操作は楽しかった。
- ・ 医療クラークの仕事内容を知ることができた。
- ・ カルテの見方。
- ・ 電子カルテ。
- ・ 電子カルテ。
- ・ パソコンの知識用語内容。
- ・ カルテ入力。
- ・ 今後、医師事務クラークが主流・必須になるということで、その時は学習しようと思った。
- ・ コンピュータ関連。
- ・ 文書作成。
- ・ 文書作成実務。
- ・ 電子カルテソフトウェア。

8. 今回の講座の中で、もっと深く学習したいテーマは何ですか。

- ・ 文書作成
- ・ 現場の診察の流れに合わせた入力
- ・ 言葉の短縮方法。
- ・ 間違いに気づいた時の対処方法。
- ・ 分かりやすく早い入力方法。
- ・ 医療の専門知識が自分自身不足していたので。
- ・ オーダリングの部分。

- ・ 診断書などの書き方。
- ・ 基礎的な事がまだまだ（用語等）なので、そういった面を学習したいです。
- ・ 電子カルテのしくみ。
- ・ パソコン（電子カルテ）の授業です。
- ・ 文書作成。
- ・ 電子カルテの入力。
- ・ 診断書の書き方等、実務的なところ。
- ・ 求められる人物像、スキル。
- ・ 文書作成。
- ・ 実際に診察を聞きながらの入力など。
- ・ 電子カルテ入力と書類作成。
- ・ 診断書の書き方。
- ・ 電子カルテ。
- ・ パソコン堪能とカルテからのSOAPの読み取り。
- ・ 医科単語。
- ・ PC入力。
- ・ 文書作成。
- ・ 文書作成に関して詳しく知りたかった。
- ・ 例文が少ない。
- ・ パソコン操作。
- ・ 文書作成。
- ・ 電子カルテの記載方法（SOAP）。
- ・ 医療用語。

9. この講座で良かったと思うところをお書きください。

- ・ 実際の業務に近い実践練習
- ・ 東京の女性の先生と最後に教えていただいて、先生の授業をもっと受けて吸収したいと思いました。
- ・ 電子カルテを学べたところ。
- ・ この時間ではなかなか基本を教えるところも難しいが、シラバスもしっかりしていました。
- ・ 野田先生がパソコンを使って、京都医療センターの医師事務作業補助者のインタビュー動画を見せてくれたことや医療クラークの学会があるなど、色々教えてくれてよかった。
- ・ 分からない点を丁寧に教えていただいたところ。

- ・ 文書作成。
- ・ 先生方の説明が分かりやすかったです。
- ・ 短期集中。
- ・ 交通の面。
- ・ 医師事務作業補助者と医療事務の違いがよく分かった。
- ・ 大学の先生方の講義が聞けてよかったです。
- ・ 日数は短かったけど、難しくなかった。
- ・ 実技が多い。
- ・ 先生方が優しく対応してくれた点。
- ・ 説明が分かりやすく楽しかったです。
- ・ シェーマの操作とパソコンの知識の教本。
- ・ 人数もちょうどよかった。
- ・ PC入力体験がよかった。
- ・ パソコンに触れられたこと。
- ・ ニチイ学館で医師事務作業補助者を学習しましたが座学のみでしたので。
- ・ 文書作成。
- ・ 実用的なところ。

10. この講座で改善してほしいと思うところをお書きください。

- ・ 書類のみ/カルテ入力のみに分かれた講座。
- ・ 質問してもすぐに返事していただけなかったのが残念でした。
- ・ もしこのような機会があれば教えて頂きたいです。
- ・ 初級、中級なども開いてほしい。
- ・ 初級編を学んでみたいです。
- ・ 終了時間が16時くらいだと良いと思う。
- ・ もう少しゆっくり勉強したい。
- ・ パソコンに触れる時間はもう少しほしい。
- ・ 日曜日だけがよい。
- ・ 講座の時間配分など。
- ・ もっと時間が欲しいです。
- ・ 先生の数を増やして頂ければ質問しやすい。
- ・ 部屋が寒かった。
- ・ 復興支援の予算があるなら、もっとパソコン操作の授業をしてほしい。
- ・ 参加者、受講者のレベル統一。

1 1. その他、なんでもご意見をお書きください。

- ・また講座があれば参加したいです。
- ・実務に役立つ最新方法をもっと教えていただきたいかったです。
- ・会場が非常に寒かった。
- ・また企画してほしいです。
- ・パソコン操作の授業をもっと増やしてほしい。
- ・修了者への就職等の情報提供があるとありがたいです。

4-3. 講座風景



4-4. 医師事務作業補助者学生講座 アンケート集計結果

「宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業」
医師事務作業補助者学生講座アンケート結果

◆プロファイリング

実施日：平成26年1月20日（月）

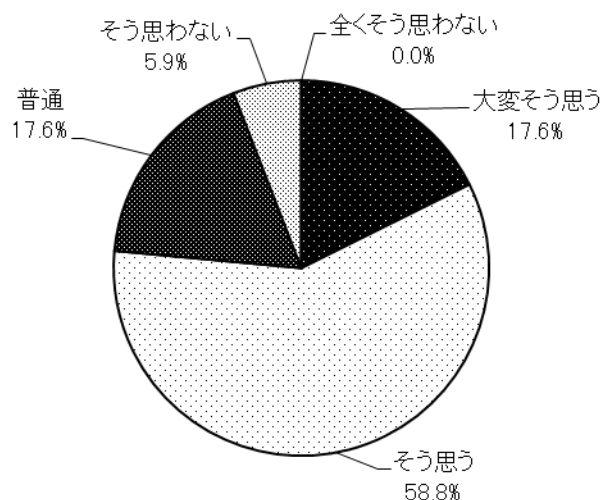
場 所：東北保健医療専門学校

対象者：18名

◆アンケート結果（回答者17名）

3. 今回の講座全体を通して、将来に役立ちそうな内容でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	3	17.6%
2	そう思う	10	58.8%
3	普通	3	17.6%
4	そう思わない	1	5.9%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	17	100%



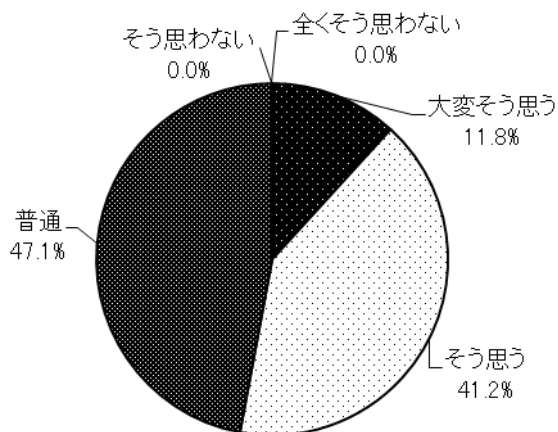
《理由》

- ・これからその道に進む人はとても良い講座だったと思う。
- ・考査対策にもなった気がします。
- ・資格取得を目指していないので。
- ・内容が深くためになりました。
- ・文書作成の内容や仕方を知っておくのはとても意味のあることだと思う。
- ・資格を取りたいと思った時に大いに役立ちそう。
- ・検定に役立つと思う。
- ・素晴らしい内容でした。
- ・医療事務を勉強する上で必要な知識の一つだと思ったから。
- ・興味深い内容だったとは思いますが、難しい内容でした。

- ・ 医師事務に興味があったから、知識が増えた。
- ・ 今月にドクターズクランクの検定受けるので、実際証明書を書くことができてよかった。

2. 講座の内容は、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	2	11.8%
2	そう思う	7	41.2%
3	普通	8	47.1%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	17	100%

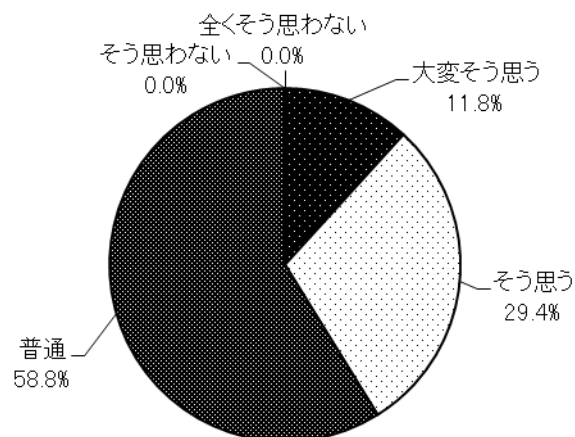


《理由》

- ・ 練習問題がたくさんできたから。
- ・ 具体的な問題を解いたため、頭に入りやすかったです。
- ・ カルテの書き方。
- ・ 大事な部分を抜き出すのが難しかった。
- ・ 難しく思えた。
- ・ 説明が細かく、またポイントが明確であったので。
- ・ 詳しい説明だったので、とても分かりやすかった。
- ・ 理解できた部分もあるけど、書き方がいまいち理解できない部分がありました。
- ・ 分かりやすい内容でした。
- ・ 実際にカルテや文書作成を書いたがすごく難しかった。
- ・ 特にカルテを書くのが難しかった。
- ・ 今まで分からなかった部分を知ることができたから。
- ・ 分かりやすく丁寧だったから。
- ・ 少しドクターズクランクに興味を持った。

3. 講座の内容に対して、時間配分は適切でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	5	29.4%
2	そう思う	10	58.8%
3	普通	0	0.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	17	100%
	合計	5	29.4%

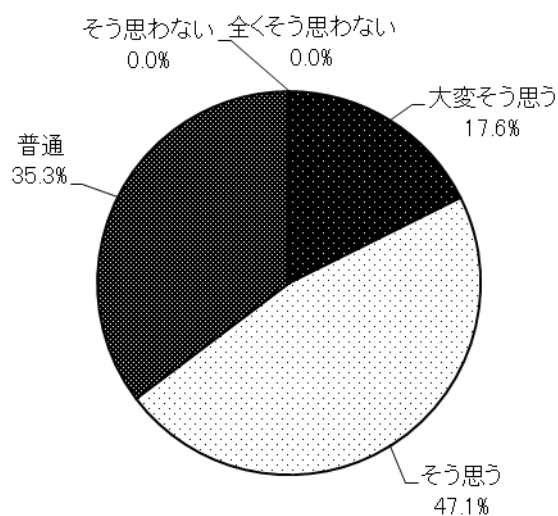


《理由》

- ・一つの問題に対する時間が長くて、とても考えられたから。
- ・普通だと思います。
- ・時間通りでした。
- ・文書作成を学ぶにおいて十分な時間をいただいた。
- ・時間通りで良いと思う。
- ・少し長かった。
- ・適切な時間配分でした。
- ・丁度よかったと思う。
- ・意外と時間がたつのが早くて、充実していたと思う。
- ・時間ごとにやることが決まっていた。
- ・丁度に終わり、丁度に始まっていた。

4. 講座で利用した用語などは、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	3	17.6%
2	そう思う	8	47.1%
3	普通	6	35.3%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	17	100%

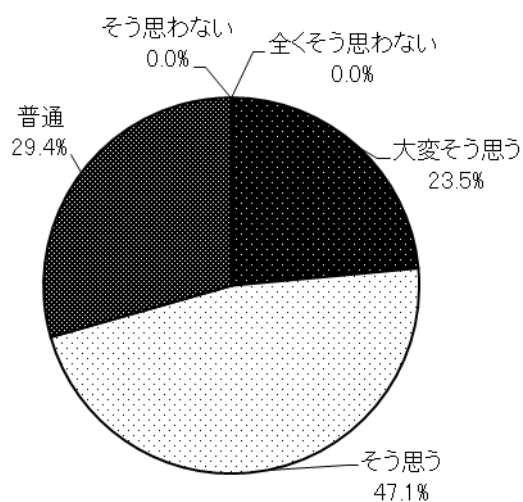


《理由》

- ・ 私たちに分かりやすい用語だったから。
- ・ 一つ一つ丁寧に教えてもらったので。
- ・ いつもの授業で習っていることなので、まあまあ理解できたと思う。
- ・ 伊藤先生が細かく説明してくださったので。
- ・ たまに分からない単語であった。
- ・ 説明があったので理解できました。
- ・ 学校で学んでいる用語だったので大体は分かった。
- ・ 説明をよくしてくれたので。
- ・ 少し分からない医療用語もあった。
- ・ 難しい用語もあったが勉強していたので分かった。

5. 講座内での解説は、わかりやすかったですか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	4	23.5%
2	そう思う	8	47.1%
3	普通	5	29.4%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	17	100%

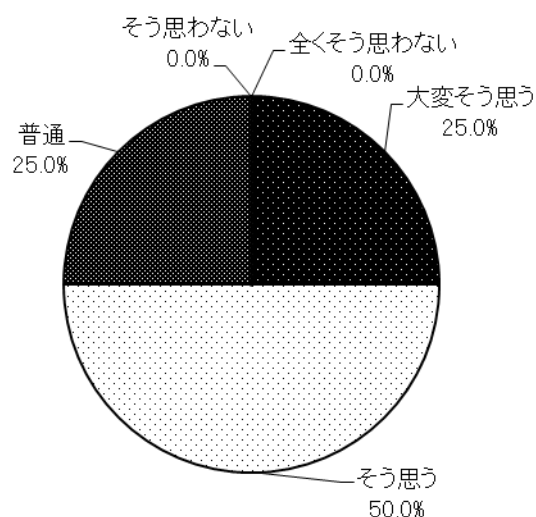


《理由》

- ・過去にあったことなども含まれていたから。
- ・一問一問丁寧でした。
- ・先生が丁寧に教えてくださった。
- ・先述したが、先生が見事に疑問に思うことを質問する前に説明してくださった。
- ・説明が丁寧。
- ・とても分かりやすかったです。
- ・丁寧に教えてくれたのでよかった。
- ・説明が分かりやすかった。
- ・丁寧に何度も話してくれた。
- ・丁寧に教えてくださった。

6. 医師事務作業補助者について理解が深まりましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	4	23.5%
2	そう思う	9	52.9%
3	普通	4	23.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	17	100%



《理由》

- ・ 経験者からの意見が大変ためになりました。
- ・ 答えが一つではないので仕事内容が深く思えた。
- ・ 病院勤務だけじゃないこと。
- ・ 案外簡単かもしれないと思った。
- ・ あやふやだった部分がきちんと理解できた。
- ・ とても理解を深められました。
- ・ 医師事務の仕事は大変そうだがやりがいもありそうだった。
- ・ 説明が丁寧だったので。
- ・ 前まで持っていたイメージと変わった。
- ・ 病院だけではなく就職の幅が広がると思った。
- ・ 少しやってみたいと思った。

7. 講座の中で、「興味を持てた」または「将来役に立つ」と思った箇所はどこでしたか。

- ・ 文書作成。
- ・ 病名をつけるところが難しく考えられませんでした。深く考えることが楽しいと思いました。
- ・ 同意書の書き方。
- ・ 病院勤務だけではないと思ったこと。
- ・ 文書作成において何かエストコーポレーションでできることがありそうと思った。
- ・ 文書ごとにポイントがあるところ。

- ・文書の作成。
- ・文書の作成。
- ・カルテの作成。
- ・医師事務の仕事内容について興味を持ってました。
- ・文書の書き方、内容。
- ・文書作成。
- ・カルテを実際に作成するところ。
- ・「以下余白」が大切なこと。
- ・女性独特の職業だということに興味を持てた。

8. 今回の講座の中で、もっと深く学習したいテーマは何ですか。

- ・文書作成。
- ・SOAPについて。
- ・SOAPの意義。
- ・文書作成における正確さ。
- ・カルテ作成におけるポイント選び。
- ・文書をより良くするためにどんなところを気をつけるべきか。
- ・文書の書き方。
- ・カルテの作成。
- ・カルテ作成について。
- ・カルテの内容、文書の書き方。
- ・類語。
- ・カルテ作成時のポイント。
- ・医療文書作成時のポイント。
- ・書き方。

4-5. 医師事務作業補助者育成教育教員研修会 アンケート集計結果

「宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業」 教員研修会アンケート結果

◆プロファイリング

実施日：平成26年1月25日（土）

場 所：東北保健医療専門学校

対象者：6名

◆アンケート結果（回答者6名）

■今回の研修会について良かった点や悪かった点など感想をお聞かせください。

- ・文書作成時のポイント等を学ぶ事ができ、今後の授業にも活かすことができます。
- ・実際の医療現場で求められているものを理解し、生徒にも伝えていきたいと思います。
- ・文書作成について、共通の悩み(指導について)を共有・意見交換ができ、とても有意義でした。また機会があれば参加したいです。
- ・資料(プリント)がとじてあると良かったです。
- ・今回と異なる文書作成も体験してみたいと思いました。
- ・参加させていただき、ありがとうございました。
- ・カルテ作成や診断書、診療情報提供書の演習があり、授業の組み立ての参考になりました。投稿は、現在医師事務作業補助者の教育は実施しておりませんが、今後導入を検討していきたいと個人的には考えております。
- ・医師事務作業補助者の指導については、まだまだ不安を感じて点が多くあったので、研修を受けられて良かったと思います。
- ・学習期間(時間数)の長いカリキュラムを持たれる、指導に向けての研修内容と感じられる部分も多かったため、当社の講座指導にすべてを取り入れることができるものではないと感じました。しかし、その中でもなるべく多くの部分を今後活かせるようにしていきたいと思います。また、実技演習もあったため、自身の技能向上にもなりました。
- ・今後の授業の進め方など、医師事務の内容以上の非常に中身の濃い授業でした。
- ・現場では知りえなかった「目からウロコ」の内容もあり、これからの授業に活かしていこうと思います。
- ・やはり、1日の講義では物足りなかったように思います。2日、3日あると良かったです。

4-6. e-learning 検証 アンケート集計結果

「宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業」
e-learning 検証アンケート結果

◆プロファイリング

実施日：平成26年2月3日（月）

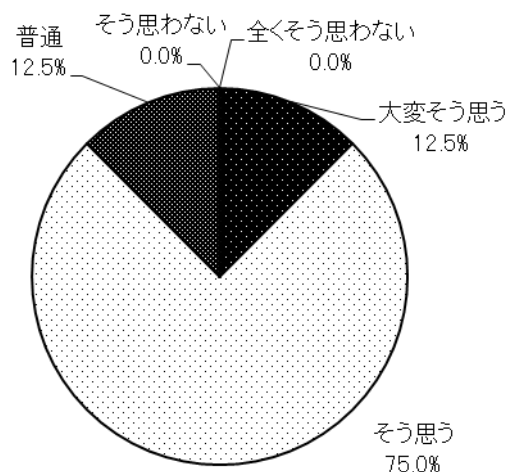
場 所：東北保健医療専門学校

対象者：8名

◆アンケート結果（回答者8名）

1. 教材の内容は理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	1	12.5%
2	そう思う	6	75.0%
3	普通	1	12.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	8	100%

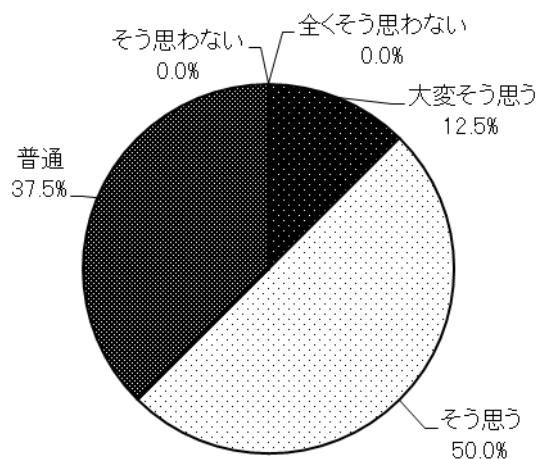


《理由》

- ・プリントは分かりやすかったです。
- ・詳しく簡単に書かれていたから。
- ・分かりやすかった。
- ・短い時間しか触れませんでした。動画などがあり分かりやすいと思いました。
- ・医師との会話などから文書の作成は可能と思いますが、独学で進める方にはナビゲーターとなる説明もプラスされると良いと思います。
- ・流れに沿って進めることができたので。

2. ビデオの速度は適切でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	1	12.5%
2	そう思う	4	50.0%
3	普通	3	37.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	8	100%

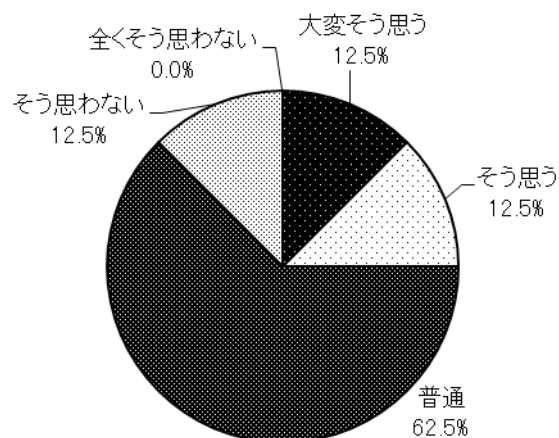


《理由》

- ・多分適切だと思います。
- ・ビデオの最初が見られなかったので家でゆっくりみたいです。
- ・私は適切だと思うが、ちょっと速く感じる人もいると思うのでもう少しゆっくりやってもいいと思う。
- ・大変見やすかったです。
- ・サイトに規制がかかる不具合もありましたが、数回止まりながらも再生することはできました。
- ・何度も繰り返すことが大事であり、聞き取りが苦手な人も繰り返し聞くことで慣れると思う。

3. この教材は使いやすかったですか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	1	5.6%
2	そう思う	3	16.7%
3	普通	8	44.4%
4	そう思わない	6	33.3%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	18	100%

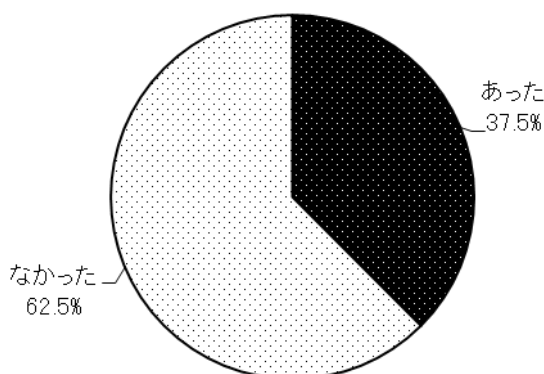


《理由》

- ・ 使いやすいだと思います。
- ・ iPad でやると時間がかかると思った。
- ・ 書類作成の練習をするのには良いと思うが、番号（保険者番号等）を打ち込む時、数字を一つ一つ打ち込むのは面倒だと思う。
- ・ 処方せんの保険者番号を一つずつ入力することと、診断書の備考を下線に合わせると自分でいちいち行を選択して改行しないといけないことが大変だった。
- ・ 性別などが丸をつけられないため選択できない。
- ・ タブレット端末では文書作成は難しいと思っていたが、比較的使いやすかった。
- ・ あまり iPad での作業が慣れていなく、PCでの操作に違いがあり少し使いにくかったと思います。
- ・ 処方せんなどの入力画面はエクセル画面となるので、セルがうまく結合されないと不便さを感じると思います。
- ・ 入力、作成において直感的には操作が難しい。

4. 教材を使用してトラブルはありましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	あった	3	37.5%
2	なかった	5	62.5%
	合計	8	100%

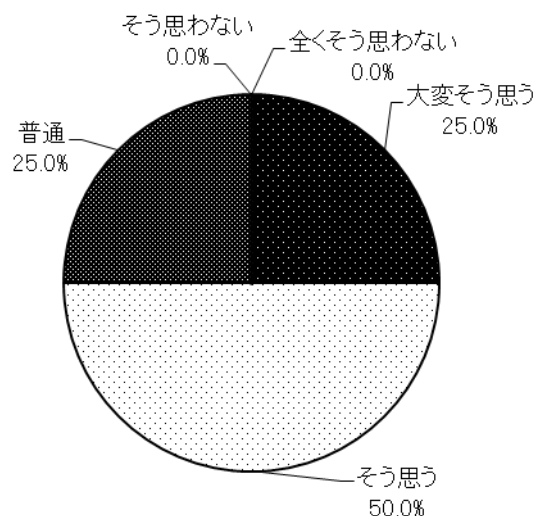


《理由》

- ・ ネットがつながりにくかったです。残念です。
- ・ サイトに規制がかかり、PCでの確認不可。
- ・ ネット回線のせいにつながりが悪かった。

5. この教材があれば自習できると思いますか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	2	25.0%
2	そう思う	4	50.0%
3	普通	2	25.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	8	100%



《理由》

- ・家でなら多分しそうです。
- ・自宅でも練習できると思う。
- ・普段は学校でしか医療文書は作れないので、これが導入されれば勉強の幅が広がると思う。
- ・iPadでの作業に慣れていないのではないかもしれません。
- ・実際の医師との会話や文書の形式が増えていけば実務にも役立つと思います。
- ・インターネット環境さえあればできるのがすごい。

6. 教材の中で、「興味を持てた」または「将来役に立つ」と思った箇所はどこでしたか。

- ・動画で参考例があったので、これはありがたいと思いました。
- ・iPadなので家でもゆっくり練習できると思ったので興味を持ってました。
- ・インターネット環境があれば、どこでも文書が作れるという点に興味を持てた。
- ・回線さえつながればどこでも医師事務作業補助者の学習ができること。
- ・全くの初めての方は内容に難しさを感じるので、事例の動画を見る前の解説があるとさらに分かりやすいと思いました。
- ・動画から聞き取り、書くという流れが現場実践に近い。

7. その他、なんでもご意見をお書きください。

- ・モバイルデータありがとうございました。
- ・まだまだ改善する所がたくさんあると思いますが、これが導入されればきっと便利になると思うので頑張ってほしい。

5. 視察調査報告

①岩手県、宮城県、福島県の医療機関の復旧・復興状況

2011年3月11日の東日本大震災から約3年。被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の医療機関の復旧・復興はいまだ途上にある。厚生労働省、県の発表した医療機関の現状をもとにしてまとめた。

◎岩手県

岩手県沿岸部にある病院は、東日本大震災の津波によって病床数が激減し、気仙医療圏は震災前が791床あったのが震災後は744床、釜石医療圏は1,019床が945床、宮古医療圏は1,468床が1,378床と激減している。久慈医療圏だけは757床が757床で震災前に回復している。岩手県の県立病院では、高田病院が136床、大槌病院が121床、山田病院が60床の病床数を有していたが、現在、高田病院が仮設病院に41床を設けることができ、大槌病院、山田病院は病床0の状態が続いている。

岩手県は、大槌病院、山田病院を2016年度、高田病院を2017年度に移転開院する方針を示しているが、病床数は震災前の水準から20%程度削減するとしているが、それでも医師確保の見通しが立っていない。岩手県の医療機関がすぐに復興できなかった原因の1つは医師・看護師の不足である。建物を元通りにしたところで、人材が確保できなければ震災前と同じレベルの医療は提供できない。また、被災地から人が流出して人口減少しているため、患者数の減少によって病院経営が厳しくなっているのも事実である。沿岸部の医療圏では患者の流出が続いており、例えば気仙医療圏では震災前に比べて患者数が32.9%減少、宮古医療圏では17.1%減少しており、今後の病院運営は厳しいといえる。

◎宮城県

医療施設の被害の大きかった気仙沼、石巻医療圏は、公立病院の再建が具体化してきた。気仙沼医療圏では、南三陸町内に外来診療部門を残しながら登米市米山町に移転した公立志津川病院が、同町内に新病院を2015年4月に開業する計画を検討している。石巻医療圏では、石巻市立、市立雄勝、恵愛の3病院が休止中で、市立病院は2012年5月に仮設診療所を設置し、2016年7、8月の新病院開院に向け基本設計に着手している。圏内の医師とベッド数が足りず、急性期の患者を受け入れている石巻赤十字病院は、症状が安定した患者の受け入れ先の確保に苦慮している。仙台（宮城野区、若林区）、塩釜はほぼ震災前まで回復している。

◎福島県

福島県は、東日本大震災前の平成22年と比較し、病院は10カ所、診療所は60カ所も減少している。岩手県は、病院が3カ所減ったが、診療所は震災前の数に回復している。宮

城県は、病院が4カ所減ったが、診療所は震災前より増えており、福島県の「医療過疎」の進行が目立っている。

県によれば、県全域で医療従事者が流出している。県内の病院に勤務する常勤医は震災前から64人減り1,960人となった。中通りの郡山市での減少も顕著で、病床をフル稼働させない医療機関もある。またもともと医師が少ないいわき市は原発事故の避難者が増え、外来の混雑が目立つ。

②視察概要

2008年4月の診療報酬改定に伴い医師事務作業補助者という職名が誕生して5年が経過し、この職種が医療機関に確実に定着しつつある。医師不足による地域医療の崩壊、診療科の閉鎖、また、産婦人科や小児科など時間を問わず生死に関わる医療に飛び込む医師の減少している中で、医師本来の診療業務に専念してもらうこと、また、医師の労働環境を改善するだけでなく生産性を向上させる効果をもたらす医師事務作業補助者の存在は重要な役割を担っている。

事業を推進するにあたり、誕生して5年経った医師事務作業補助者の人材像を明確にし、カリキュラムや教材の再構築を行うため、その採用と配置、業務スキル、業務内容、また被災地の医療機関として対応していることなどを委員が直接訪問し、医師や従事者、事務管理者からヒアリングを行った。

視察先とスケジュールは以下のとおりである。

- (1) 平成25年8月26日(月) 大阪：社会医療法人 愛仁会 高槻病院
- (2) 平成25年8月28日(水) 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院
- (3) 平成25年8月29日(木) 医療法人溪仁会 手稻溪仁会病院
- (4) 平成25年10月24日(木) 広島赤十字・原爆病院
- (5) 平成25年11月5日(火) 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院
- (6) 平成25年11月5日(火) いわき市立総合磐城共立病院
- (7) 平成25年11月7日(木) 医療法人 松田会 松田病院
- (8) 平成25年11月7日(木) 医療法人社団赤石会 赤石病院

③視察内容

視察先8か所の詳細内容は次のとおりである。

(1) 社会医療法人 愛仁会 高槻病院

図 1-1 社会医療法人 愛仁会 高槻病院



1-1 視察先の概要とプロフィール

大阪府高槻市にある「社会医療法人 愛仁会 高槻病院」は、昭和 52 年に開設された。病床数は 477 床で地域の中核病院である。当院は、急性期病院、地域医療支援病院、総合周産期母子医療センター、臨床研修病院、市民病的役割を果たすための病院としての使命を持っている。

「患者さまの満足する医療」を病院の理念とし、5つの基本方針で病院運営を行っている。

- ・急性期病院として、診療機能の高度化・専門化を図り、常に医療サービス内容の充実に努める。
- ・地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携、救急医療の提供、地域医療従事者の資質向上のための研修など、地域における医療の確保のために支援を行う。

- ・総合周産期母子医療センターとして、地域の周産期医療施設等と連携を図り、母体または児におけるリスクの高い妊娠に対する医療及び高度な新生児医療等の周産期医療を提供する。
- ・臨床研修病院として、医師の人格涵養、診断能力修得の指導に努め、優秀な医師を輩出する。
- ・市民病院的役割を果たすため、市民の健康診査、健康教育等、保健事業の推進に積極的に関わり、生活習慣病の発症予防等に寄与する。

近年、当法人は高槻駅周辺地域に新築移転が続いている。平成23年7月に愛仁会リハビリテーション病院が高槻病院南側に移転し、平成25年4月には高槻病院西に愛仁会看護助産専門学校が新築移転した。また、高槻病院も病院北側で新高槻病院に向けて工事が始まり、1) 質の高い地域医療の提供、2) 周産期医療・小児医療・救急医療の充実、3) 患者さまにやさしい急性期病院、4) 職員にやさしい急性期病院、5) 人材育成の5つのコンセプトを基にして新高槻病院の建設を行っている。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	社会医療法人 愛仁会 高槻病院
住 所	〒569-1192 大阪府高槻市古曽部町1丁目3番13号 TEL 072-681-3801 FAX 072-682-3834
病 院 長	家永 徹也
開設年月日	昭和52年11月
病 床 数	一般病床 477床
診 療 科 目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科、総合診療科、神経内科、神経科、初期物忘れ外来、小児科、新生児小児科、小児外科、小児脳神経外科、産科、婦人科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線診断科・放射線治療科、病理診断科、麻酔科
認 定 施 設	臨床研修指定病院 総合周産期母子医療センター (MFICU NICU) 地域医療支援病院 開放型病院 Baby Friendly Hospital (WHO/ユニセフ) 大阪府がん診療拠点病院 (財) 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定
学 会 認 定	日本外科学会、日本内科学会、日本胸部外科学会、日本循環器学会、日本糖尿病学会、日本小児外科学会、日本泌尿器科学会、

		日本整形外科学会、日本眼科学会、日本神経学会、 日本医学放射線学会、日本心血管インターベンション学会、 日本脳卒中学会、日本周産期・新生児学会、日本精神神経学会、 日本がん治療認定医機構、日本産婦人科学会、日本小児科学会、 日本病理学会、日本消化器病学会、日本皮膚科学会、 日本脳神経外科学会、日本胸部疾患学会、日本消化器内視鏡学会、 日本麻酔科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器外科学会、 日本耳鼻咽喉科学会、日本消化器外科学会、 日本周産期・新生児学会、日本小児神経学会、日本手の外科学会
沿	革	1958年11月 大阪市西淀川区にて法人設立認可
		1977年11月 法人第二病院として高槻病院竣工開院(180床)
		1980年4月 NMCS(大阪府新生児診療相互援助システム)参加
		1982年4月 現在地に新築移転(302床)
		1983年4月 旧高槻病院建物を理学診療科病院 (現、愛仁会リハビリテーション病院)として 再開院 201床
		1987年4月 OGCS(大阪府産婦人科診療相互援助システム)参加
		1987年8月 高槻病院増築棟竣工(477床) コミュニティーホール「アイワホール」設立
		1987年10月 ボランティア「マザーグース」発足
		1990年10月 大蔵省より特定医療法人として認可
		1992年10月 院外処方開始
		1995年11月 オープン検査システム開始
		1997年4月 厚生省臨床研修病院認定
		1997年12月 開放型病院届出
		1998年2月 訪問看護ステーション開設
		1998年5月 日本医療機能評価機構病院機能評価認定
		1999年1月 救急告示
		1999年10月 ケアプランセンター「愛仁会高槻」開設
		1999年11月 ホームヘルパー(2級)養成講座開講
		2001年8月 高槻病院東館(増築棟)竣工、 総合周産期母子医療センター開設
		2003年10月 日本医師会生涯教育講座開講
		2003年12月 日本医療機能評価機構による病院機能評価更新認定
		2004年2月 電子カルテ稼動
		2005年8月 特別医療法人認可

- 2005年 12月 大阪府知事より地域医療支援病院名称承認
- 2006年 4月 D P C 対象病院
- 2006年 12月 看護基準7:1取得
- 2008年 2月 病院機能評価認定3回目 (Ver5.0)
- 2008年 8月 赤ちゃんにやさしい病院 (BFH) 認定
- 2008年 10月 卒後臨床研修評価認定 (JCEP)
- 2009年 1月 社会医療法人認定
- 2009年 3月 大阪府がん診療拠点病院認定
- 2011年 7月 高槻病院解体改修工事開始
(高槻未来プロジェクト)
- 2011年 7月 高槻病院外来移転
(愛仁会リハビリテーション病院竣工)
- 2012年 5月 標榜科目変更
- 2012年 12月 救急協力診療科追加
- 2012年 7月 日本病院会 QI プロジェクト参加
- 2013年 6月 日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 6.0 認定

図1-2 アクセスマップ



- ・ JR 高槻駅 徒歩7分
- ・ 阪急高槻市駅 徒歩12分

1-2 視察先選定理由

高槻病院は、30 数年以上前から現在の「医療秘書」にあたる事務系スタッフを採用している。医師は本来の診療業務に集中し、電子カルテの入力や文書作成などの事務業務は医療秘書がサポートすることにより、医師としてのパフォーマンスを上げることを目的として採用している。

平成 20 年度「医師事務作業体制加算」が新設された際、医師事務作業補助者のモデルケースとして平成 20 年 10 月に当院をヒアリングした。当時、事務スタッフ約 100 名のうち半分近くが医療秘書であり、医師事務作業体制加算の点数は 25 対 1 補助体制加算を届出していた。この施設基準であれば 16 名を配置すれば基準を満たすが、その 3 倍もの医療秘書を採用し、すべて専任の職員であった。その理由は、病院に対しての帰属意識や仕事に対するモチベーションが高くなるためである。また、ヒアリング協力者であった「医療秘書科」の科長は、現在事務部長にキャリアアップしていた。

今回、高槻病院を視察先とした理由は、常に先進的な取り組みを行っている当院の医師事務作業補助者の採用と配置、業務スキル、業務内容などについてヒアリングを行った。

1-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成 25）年 8 月 26 日（月）15:00～17:00
場 所	社会医療法人 愛仁会 高槻病院
協力者	母子系医療秘書科 科長 村上 尚子 氏 成人系医療秘書科 科長 車田 絵里子 氏
参加委員	清水、高橋、伊藤、柄沢、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院では、医師事務作業補助者のことを「医療秘書」と呼んでいる。外来と病棟を合わせて医療秘書は 64 名おり、そのうち医師事務作業補助体制加算の対象者として届けているのは 52 名である。男性の医療秘書は 2 名、主に手術室で使用薬剤の入力を行っている。医師事務作業補助体制加算の算定区分は、「15 対 1」を届出ている。

医師事務作業補助者を採用することにより、「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」を期待している。

配置に関しては、四年制大学を卒業した者を採用し、研修を行い、業務スキルやコミュニケーション能力などの適性をみて配置している。プリセプター制度があり、新人には先輩がついて医師事務作業補助者の業務をサポートしている。

・医師事務作業補助者の業務スキル

当院が必要とする医師事務作業補助者の専門知識は、コンピュータ知識やコミュニケーション能力は必須であるが、文書作成を行うために必要な能力は、文章を要約する能力、

語彙力、カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造）、薬学知識（処方箋、薬物療法）、簡単な病院統計学、個人情報保護などである。実際、診療室に配置された医師事務作業補助者に対して医師からは、医学用語や病院特有の用語などがわかる人材を配置してもらいたいとの要望もあり、医師や看護師を講師とした臨床研修の充実を図っている。

・医師事務作業補助者の業務内容

当院の医師事務作業補助者の業務内容は、文書作成の代行業務と検査予約などのオーダー代行入力や電子カルテへの代行入力、処方箋や診察予約の代行入力を行っている。これらはすべて医師の指示のもと行っており、実施前には必ず医師に確認を行っている。

文書作成の代行業務として、院外提出文書：、紹介状・診療情報提供書・生命保険会社に提出する書類・介護保険の主治医意見書・各種公費申請書、院内文書：入院診療計画書・退院証明書・退院療養計画書・退院サマリー、以上を一部もしくは全代行している。死亡診断書、傷病手当金意見書、療養費同意書などについても同様である。各種公費申請に関しては、医師や MSW からの求めがあって申請を開始しているのが現状であるが、医療秘書でも対象者をキャッチし、逆に医師に申請をアプローチできるようなレベルであることが望ましく、先に述べた臨床研修の充実にこういった視点も盛り込んでいく計画がある。

また、医師の学術支援も積極的に行っており、学会事務局運営や各種研修会の企画運営などの実績がある。

(2) 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院

図2-1 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院



2-1 視察先の概要とプロフィール

石川県野々市市は、石川県の中心部にあり、金沢市のベッドタウンとして発展を続けている。東洋経済新報社による「住みよさランキング2013」総合評価第2位が野々市市である。金沢市近郊という利便さから介護施設なども充実、高齢者人口の比率の低さに加え、金沢市の20%通勤圏で「人口当たり病院・一般診療所病床数」の指標で金沢市の数値を採用したこともあり、「安心度」で全国1位である。また大型商業施設も多く、金沢市をはじめ近隣から多くの買い物客らが集まるため「利便度」でも全国1位。さらに「快適度」は5位、3部門で全国トップクラスの評価となっている。

金沢脳神経外科病院は、「住みよさ」第2位の野々市市の中心部より西側にあり、最寄り駅であるJR北陸本線松任駅から車で10分程度の位置にある。当院は、脳卒中センター、脊椎センター、リハビリテーションセンター、医療療養病棟の4つの特色を持つ脳神経外科の専門病院である。「脳神経外科専門病院として、私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。」という理念のもと、6つの基本方針によって患者に対して医療を提供している。

1. 患者の皆様の権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。

2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院
住 所	〒921-8841 石川県野々市市郷町 262-2 TEL 076-246-5600 FAX 076-246-3914
病 院 長	佐藤 秀次
病 床 数	一般病床 60 床（脳卒中ケアユニット 9 床を含む） 療養病床 160 床（回復期リハビリテーション病床 106 床を含む）
診 療 科 目	脳神経外科、神経内科、循環器内科、麻酔科、 リハビリテーション科
専 門 外 来	脊椎専門外来、もの忘れ専門外来
面 会 時 間	午前 11 時～午後 8 時まで
指定及び届出施設基準（平成 24 年 9 月 1 日現在）	保険医療機関 日本脳神経外科学会認定医研修病院 日本脳卒中学会教育研修病院 協力型臨床研修指定病院 日本麻酔科学会認定病院 社会保険病院 救急指定病院 労災保険指定病院 国民健康保険病院 自立支援法指定病院 生活保護法指定病院 身体障害者福祉法指定病院 一般病棟 7 対 1 入院基本料 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 療養病棟入院基本料 1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 一般病棟 7 対 1 入院基本料

回復期リハビリテーション病棟入院料 1
 療養病棟療養環境加算 I
 療養病棟入院基本料 1
 重症患者等療養環境特別加算
 療養環境加算
 診療録管理体制加算
 救急医療管理加算
 医師事務作業補助体制加算 25 対 1
 急性期看護補助体制加算 50 対 1
 データ提出加算 2
 退院調整加算
 地域連携退院時指導料 I
 感染防止対策加算 2
 入院時生活療養費 I
 地域連携診療計画管理料
 運動器リハビリテーション料 I
 入院時食事療養費 I
 麻酔管理料 I
 脳血管疾患等リハビリテーション料 I
 夜間休日救急搬送医学管理料
 集団コミュニケーション療法料
 検体検査管理加算 I
 外来リハビリテーション診療料
 脳・脊髄刺激装置植込、交換術
 薬剤管理指導料
 CT撮影及びMR I撮影
 救急搬送患者地域連携紹介加算
 救急搬送患者地域連携受入加算
 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術

2-2 視察先選定理由

当院の医療秘書室主任である矢口氏は、特定非営利活動法人「日本医師事務作業補助研究会」理事長でもある。この「医師事務作業補助研究会」は、医師事務作業補助者の実務能力の向上と業務環境の改善、医師時作業補助領域の開発及び普及を図ることにより、病院勤務医の業務負担軽減に貢献し医療の質の向上に寄与することを目的として、平成23年5月に発足した。現在、全国大会や地方会などのセミナーを積極的に展開運営しており、セミナーを通して医師事務作業補助者の悩みや問題点など情報を共有し、改善点を策定して実務に役立て行く取り組みがなされている。

今回、金沢脳神経外科病院を視察先とした理由は、研究会の理事長である矢口氏から医師事務作業補助者の採用ポイントや配置、業務スキル、業務内容、将来性などについてヒアリングするとともに、当院の病院長であり研究会事務局長でもある佐藤氏から、医師の立場からみた医師事務作業補助者の業務内容や将来性などについてヒアリングを行った。

2-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年8月28日（水）15:00～17:00
場 所	医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院
協力者	病院長 医療秘書室 室長 佐藤 秀次 氏 医療秘書室 主任 矢口 智子 氏
参加委員	伊藤、柄沢、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は10名。医師事務作業補助者としての業務歴は、5年目1名、3年目1名、1年目8名である。今後は、医師事務作業体制加算点数と病院経営のバランスを考えて採用をしていきたい。医師事務作業補助者を採用することにより、「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「医師の定着」「患者サービスの向上」を期待している。特に、医師事務作業補助者が事務業務にあたることは、医師本来の診療業務に集中できるメリットが大きく、手術の回数増や外来患者の診察予約の増加など経営への貢献度が高い。事務職員を医師事務作業補助者として配置する場合、コミュニケーション能力がある、正確な仕事（ミスが少ない）ができる人などを主に配置している。

・医師事務作業補助者の業務スキル

当院が必要とする医師事務作業補助者の専門知識は、文章を要約する能力と語彙力があることが特に重要であり、簡潔明瞭に書ける能力が必須である。カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造）、薬学知識（処方箋、薬物療法）、簡単な病院統計学、個人情報保護などは院内研修で教育を行っている。また、診療報酬の知識や薬剤の知識、配置される診療科の専門的

知識が必要である。主治医意見書を作成する際、カルテに書かれている内容だけではなく、患者またはその家族にも聞いて情報収集している。医師が書いたカルテを読み込んで文書作成をするため、医学用語や略語などの知識を今後研修などで積極的に学べるよう充実させていく予定である。

・ 医師事務作業補助者の業務内容

当院の医師事務作業補助者の業務内容は、電子カルテへの代行入力、診療録の一部と診療予約の入力を行っており、オーダー入力と処方箋入力などについては今後予定している。文書代行作成は、10人全員が業務にあたっており、院外に提出する文書は、紹介状、診療情報提供書、生命保険会社に提出する書類、介護保険の主治医意見書を作成している。院内文書では、院内案内文書、手術（承諾書、診断書）、入院（契約書、証明書、予約表）、退院サマリー、検査等の承諾書を作成している。死亡診断書、傷病手当金意見書、療養費同意書も作成している。

病院長からは、当初考えていた以上の仕事をしてもらっており、配置してから医師の事務業務の負担が軽減している。本来医師が作成しなくてはならない紹介状などの文書や手術記録も代行して作成してもらい、大変助かっている。

・ 医師事務作業補助者の将来性

医師事務作業補助者は、今後、人気が出る職種だと思う。今年初めて専門学校から4名の2週間インターンシップを受け入れた。最初は専門学校で学んだ知識で仕事を行う医療事務職を考えていたようであるが、医師事務作業補助者の業務を経験した結果、インターンシップ後は、医師事務作業補助者になりたいと全員が感想を述べていた。この職種は、医師と患者の間に入って行う業務であり、大変やりがいのある仕事だと思う。現在、医師事務作業補助者も不足しているため、ぜひ教育を受け、医師事務作業補助者としての業務にあたってもらいたい。

(3) 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院

図3-1 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院



3-1 視察先の概要とプロフィール

札幌市手稲区は、札幌市の西側に位置し小樽市と石狩市に接している。交通の便はよく、国道5号沿線地区であり札幌自動車の手稲インターチェンジもある。また JR 手稲駅は、札幌駅から快速や普通列車で10分～15分程度の距離にあり、手稲区は札幌中心部のベッドタウンとして発展している。

手稲溪仁会病院は、JR 手稲駅に隣接し、駅北口より徒歩2～3分にある利便性の良い病院であり、当地域の地域医療支援病院である。365日24時間急性期救急医療体制構築をはかり、救命救急センターとドクターヘリ基地病院の指定を受け、2007年に救命救急棟を開設した。この救命救急棟には、救命救急センター、集中治療室、手術室の中央3部門を同一棟内に包括するという画期的な取り組みを行っている。

「患者主体の医療に徹する。地域に開かれた病院を目指す。高度の医療もわかりやすく提供する。学習機会の積極的活用による前向きなチーム医療を実践する。」を病院の理念とし、患者の権利を約束している。

- ・私たちは患者さまお一人お一人の意識を最大限に尊重して接します。

- ・私たちは診断・検査・治療計画等についてわかりやすく説明いたします。
- ・最終的な治療方針の決定は患者さま個人の意思を最も尊重します。
- ・主治医・看護師をはじめ職員の説明がわかりにくい場合や疑問がある場合は遠慮なくお申し出ください。
- ・私たちが医療行為上知り得た個人の情報やプライバシーは必ずお守りします。

当院は「地域住民及び利用者から信頼され、質の高い急性期総合医療および専門医療サービスを提供する病院」を目標とし、医師、看護師、薬剤師、技師、事務部門など将来の医療を担う人材を「人財」として育成することに努め、「医療の質向上」を図りつつ「モチベーションの高いプロフェッショナル集団」を目指している。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
住 所 〒921-8841 札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号
TEL 011-681-8111 FAX 011-685-2998

病 院 長 田中 繁道

開院年月日 1987年12月16日

病 床 数 562床

(集中治療室12床・ハイケアユニット12床・
救命救急病床19床・脳卒中ケアユニット9床・
NICU3床・開放型病床5床)

診 療 科 目 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、外科、呼吸器外科、
心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神保健科、
リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、
小児歯科、血液内科、腎臓内科、消化器外科、頭頸部外科、
放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、腫瘍内科

施 設 基 準

[基本診療科]

一般病棟入院基本料（7対1入院基本料）

総合入院体制加算

地域医療支援病院入院診療加算

臨床研修病院入院診療加算（基幹型）

救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算

超急性期脳卒中加算

妊産婦緊急搬送入院加算

診療録管理体制加算
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算(25対1)
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算2
がん診療連携拠点病院加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
患者サポート充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊婦管理加算
ハイリスク分娩管理加算
退院調整加算
新生児特定集中治療室退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
乳幼児、乳児加算、地域加算、救命救急入院料1
特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料
小児入院医療管理料2
新生児特定集中治療室管理料2
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
入院時食事療養(I)
[特掲診療料]
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者カウンセリング料
内トリアージ実施料
外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料

肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料 1
 医療機器安全管理料 2
 在宅血液透析指導管理料
 造血器腫瘍遺伝子検査
 HPV 核酸検出
 検体検査管理加算 (Ⅱ)
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
 植込型心電図検査
 時間内歩行試験
 胎児心エコー法
 ヘッドアップティルト試験
 センチネルリンパ節生検 1 (併用法)
 画像診断管理加算 1
 C T 撮影及びMR I 撮影
 冠動脈C T 撮影加算
 心臓MR I 撮影加算
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算 1
 無菌製剤処理料
 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ)
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ)
 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)
 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)
 がん患者リハビリテーション料
 透析液水質確保加算 2
 一酸化窒素吸入療法
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 乳がんセンチネルリンパ節加算 1
 併用法、経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)
 経皮的中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 植込型心電図記録計移植術
 植込型心電図記録計摘出術
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術

植込型除細動器移植術・植込型除細動器交換術
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
大動脈バルーンポンピング法（IABP）
補助人工心臓
経皮的大動脈遮断術
ダメージコントロール手術
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
膀胱水圧拡張術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
人工尿道括約筋植込・置換術
医科点数表第2章第10部手術の通則5
（歯科点数表第2章第9部の通則4をふくむ。）及び6に掲げる手術
輸血管理料Ⅰ
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
内視鏡手術用施設支援機器加算
人工乳房及び組織拡張器（乳房用）使用
麻酔管理料（Ⅰ）
麻酔管理料（Ⅱ）
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
画像誘導放射線治療加算（IGRT）
病理診断管理加算2
[歯科]
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科診療特別対応連携加算
医療機器安全管理料（歯科）
クラウン・ブリッジ維持管理料
歯周組織再生誘導手術
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）

	(歯科診療に係るものに限る)
	下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
	(歯科診療に係るものに限る)
	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
	歯科外来診療環境体制加算
	歯科矯正診断料
診 療 指 定	保険医療機関
	国民健康保険療養取扱機関
	DPC 対象病院
	労災保険指定病院
	結核予防法指定病院
	生活保護法指定病院
	自立支援医療機関
	身体障害者福祉法指定病院
	小児慢性疾患取扱病院
	特定疾患治療研究委託病院
	母体保護法指定医療機関
	札幌市・石狩市乳幼児医療費助成取扱病院
	札幌市・石狩市乳がん、子宮がん検診実施病院
	原子爆弾被爆者医療取扱病
	予防接種委託医療機関
	政府管掌健康保健成人病予防検診機関指定
	養育医療機関指定病院
	特定不妊治療費助成指定機関
各 種 指 定	厚生労働省指定 臨床研修病院
	厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
	北海道指定 地域災害拠点病院 (地域災害医療センター)
	北海道指定 地域医療支援病院
	救命救急センター
	救急告示病院
	札幌市救急二次・三次体制常時協力病院・病院群輪番病院

図3-2 アクセスマップ



JR 手稲駅に隣接し、国道、高速道路インターチェンジにもほど近い立地環境の手稲溪仁会病院。来院などのアクセスにも大変優れています。

■JRをご利用の方

札幌駅より小樽方面へJRご利用で10分、手稲駅下車、北口1出口から正面に建物が見えます。
(徒歩2~3分)

■バスをご利用の方

JR手稲駅北口停留所より徒歩2分です。

3-2 視察先選定理由

当院の医療秘書課課長補佐である南木氏は、特定非営利活動法人「日本医師事務作業補助研究会」副理事長でもある。南木氏は「医師事務作業補助研究会」北海道地方会の代表世話人でもあり、医師事務作業補助者の実務能力の向上と業務環境の改善、医師時作業補助領域の開発及び普及、病院勤務医の業務負担軽減などで研究発表をされ、また研究会での情報を共有した結果をもとに業務に役立てている。

今回、手稲溪仁会病院を視察先とした理由は、研究会の副理事長である南木氏から医師事務作業補助者の採用ポイントや配置、業務スキル、業務内容、将来性などについてヒアリングを行った。

3-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年8月29日（木）15:00～17:00
場 所	医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
協力者	経営管理部 医療秘書課 課長補佐 南木 由美 氏
参加委員	伊藤、柄沢、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は、経営管理部「医療秘書課」と「医療情報課」に所属しているが、医療秘書課の所属は42名（女性41名、男性1名、2013年8月現在）で、医師事務作業補助体制加算の算定区分は、「15対1」を届出ている。

医師事務作業補助者を採用することにより、「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」を期待している。この職種は、医師や看護師、コメディカルなどの他部門とのクッション役を担っており、医師と患者との間のクッション役でもありと考えている。配置の際に必要なとされる能力は、コミュニケーション能力があること、パソコン操作ができる（入力が速い）ことなどがある。

・医師事務作業補助者の業務スキル

医療文書は、件数の多い診療科で医師事務作業補助者一人あたり月に150件程度作成している。必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造）、薬学知識（処方箋、薬物療法）、個人情報保護などである。専門知識も必要であるが、特に語彙力と要約力を使い、カルテの重要な箇所を正確にかつ簡潔明瞭に抜き出し、それを早く文書として作成することができるかがポイントとなる。生命保険会社に提出する書類には検査のDコード、手術のKコード、処置のJコードなどを書く必要があるため、医療事務の知識も必要である。また、病名と薬剤の知識は内容がわかる程度知識が必要である。

当院は、総合病院のため診療科も多く、研修では広い分野で教育を行い、配属された診療科においてOJT研修でスキルアップに努めている。医師が積極的に医師事務作業補助者に代行させている診療科ほどスキルアップしている。

・医師事務作業補助者の業務内容

電子カルテの代行入力業務は、現在の電子カルテシステムが2000年に導入されたもので、代行入力サポート体制になっていない。2014年1月にリプレイスする予定であり、今後、教育をしっかりと行って代行入力を行いたいと考えている。

文書代行作成は、北海道内の医師が独自に作ったソフトを使用している。作成する際には、カルテだけではなく、患者問診票の情報も参考としている。院外文書は、生命保険会社に提出する書類、介護保険の主治医意見書、傷病手当金意見書などを作成しており、診

療情報提供書は返書のみ作成している。院内文書は退院サマリーの作成補助を行い、院内がん登録は医療情報課が担当している。医療秘書課には課内で作成した医療文書作成マニュアルがある。

・医師事務作業補助者の将来性

当院の医師事務作業補助者の主な業務は、臨床支援、学術支援と日常支援業務である。データベース入力管理や医師のスケジュールなどを一元管理することで、正確な診療データの構築や医師が診療に専念できる環境の確保に貢献できている。医師事務作業補助者は、医療事務の経験者や有資格者が行った方がよりよいと考える。

医師事務作業補助者は、各部門との調整役となることが求められるため、コミュニケーションを取りながらモチベーションを持続することが重要である。医師や患者などから「感謝の言葉」をいただいたときに 93%の人がこの仕事にやりがいを感じるとの院内アンケート結果もあり、大変やりがいのある仕事である。

新人採用については、専門学校生などの実習受け入れその後の採用を医療事務職は行っているが、医師事務作業補助者は現在行っていない。実習受け入れは、今後の新人採用にむけてよい検討材料となると考えられる。

また、医師事務作業補助者は文書作成業務が必須になると思われるので、学生が専門学校で文書作成の教育を徹底して受け、文書作成ができれば、特に中途採用が多い現場では、採用時の大きな判断材料にもなると思われる。

(4) 広島赤十字・原爆病院

図4-1 広島赤十字・原爆病院



4-1 視察先の概要とプロフィール

広島赤十字・原爆病院は、昭和14年に広島赤十字病院として設立され、昭和20年8月6日の被爆後、昭和31年に広島原爆病院が敷地内に併設された。昭和63年広島赤十字病院は原爆病院と統合され、「広島赤十字・原爆病院」という名称を変え現在にいたっている。

「人道・博愛の赤十字精神のもと、人々に愛され信頼される病院を目指します。」

という理念のもと、5項目の基本方針を掲げている。

- ・安全・確実な医療を提供します。
- ・常に研鑽を行い、質の高い医療・看護に努めます。
- ・人権を尊重し、説明と同意に基づいた医療を行います。
- ・適切な連携を図り、地域医療に貢献します。
- ・積極的な災害救護活動を行います。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	広島赤十字・原爆病院
住 所	〒730-8619 広島市中区千田町1丁目9番6号 TEL082-241-3111（代表） FAX 082-246-0676（代表）
病 院 長	石田 照佳
職 員 数	1077名（非常勤職員を含む）
許 可 病 床 数	一般病床 598床
診 療 科 目	内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、内分泌・代謝内科、 神経内科、循環器内科、呼吸器科、消化器内科、精神科、外科、 脳神経外科、整形外科、リウマチ科、産婦人科、小児科、 耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、 放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科（25科）
特殊診療部門	人工透析（47台）、無菌治療室（54床）、血液成分採血装置（6台）、 救急専用病床（4台）、開放病床（20床）、 骨髄移植施設、小児外来化学療法室（1床）
特 殊 施 設	健康管理センター、血液・腫瘍治療センター （個室4、ベッド32、リクライニングチェア9）、肝臓センター
付帯事業施設	原子力放射能障害対策研究所
医療機関の指定・承認	<p>保険医療機関</p> <p>児童福祉法に基づく養育医療指定医療機関</p> <p>被爆者一般疾病医療機関</p> <p>生活保護法に基づく指定医療機関</p> <p>労災保険指定医療機関</p> <p>小児慢性疾患及び特定疾患指定医療機関</p> <p>公害健康被害の補償等に関する法律に基づく指定医療機関</p> <p>戦傷病者特別援護法に基づく指定医療機関</p> <p>母子保健法に基づく指定医療機関</p> <p>母体保護法に基づく指定医療機関</p> <p>原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく指定医療機関</p> <p>感染症法に基づく感染症指定医療機関（結核指定医療機関）</p> <p>障害者自立支援法に基づく指定自立支援医療機関 （更正・育成・精神通院）</p> <p>中国在留邦人等支援法に基づく指定医療機関</p> <p>外国医師・外国歯科医師臨床修練指定病院</p> <p>2次救急指定医療機関</p>

災害拠点病院（地域災害医療センター）
臨床研修指定病院（医科）
臨床研修指定病院（歯科）
地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院
広島県肝疾患診療支援ネットワーク専門医療機関
DPC対象病院
肝炎インターフェロン治療指定医療機関
日本病院機能評価 Ver. 5.0（一般病院）認定施設
人間ドック健診施設機能評価認定施設 Ver. 2.0

各種学会教育病院指定等の施設資格

日本内科学会認定医制度教育病院
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本腎臓学会研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設
日本神経学会専門医制度教育関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設
日本高血圧学会認定研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本感染症学会研修施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本老年医学会認定施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設
日本消化器病学会認定医制度認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
呼吸器外科専門医認定機構基幹施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設A
日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医暫定研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本内分泌学会認定教育施設〔小児科〕
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本口腔外科学会認定医制度研修機関
日本人間ドック学会人間ドック専門医制度研修施設
日本病理学会病理専門医制度認定施設 B
日本臨床細胞学会認定施設
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼動施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設
日本胆道学会指導施設
日本小児がん学会認定小児血液・がん専門医研修施設

施設基準

[基本診療料]

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料（7対1入院基本料）
総合入院体制加算
臨床研修病院入院診療加算(医科)
臨床研修病院入院診療加算(歯科)
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算

医師事務作業補助体制加算 3 (25 対 1)
急性期看護補助体制加算 3 (50 対 1)
療養環境加算
重症者療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 1
無菌治療室管理加算 2
がん診療連携拠点病院加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
データ提出加算 2
小児入院医療管理料 4
[特掲診療料]
高度難聴指導管理料
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者カウンセリング料
移植後患者指導管理料
糖尿病透析予防指導管理料
夜間休日救急搬送医学管理料
外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
ハイリスク妊産婦共同管理料 (I)
がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料

肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2
歯科治療総合医療管理料
在宅訪問看護・指導料
HPV 核酸検出
検体検査管理加算 (IV)
植込型心電図検査
時間内歩行試験
胎児心エコー法
ヘッドアップティルト試験
皮下連続式グルコース測定
長期継続頭蓋内脳波検査
神経学的検査
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
センチネルリンパ節生検 1
センチネルリンパ節生検 2
画像診断管理加算 2
CT 撮影及びMRI 撮影
冠動脈 CT 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)
呼吸器リハビリテーション料 (I)
エタノールの局所注入 (甲状腺)
エタノールの局所注入 (副甲状腺)
透析液水質確保加算 2
歯科技工加算
脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む。)
及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
上顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る。) (歯科)

下顎骨形成術（骨移動に伴う場合に限る。）（歯科）
 乳がんセンチネルリンパ節加算 1
 乳がんセンチネルリンパ節加算 2
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
 体外衝撃波胆石破碎術
 腹腔鏡下肝切除術
 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 膀胱水圧拡張術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章
 第 9 部手術の通則 4 を含む。）に掲げる手術
 輸血管理料 I
 輸血適正使用加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
 麻酔管理料（I）
 放射線治療専任加算
 外来放射線治療加算
 高エネルギー放射線治療
 病理診断管理加算 2
 クラウン・ブリッジ維持管理料
 体外衝撃波膵石破碎術

図4-2 新棟建設（2017年2月末グランドオープン）



4-2 視察先選定理由

広島赤十字・原爆病院は、日本赤十字社が運営する病院で、原爆に被災し、被爆後の医療拠点となった歴史的な経緯から原爆症治療のノウハウを多く持っている。「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく指定医療機関」の指定を受け、現在では原爆症以外の疾病を中心とした診療を行っている。

放射線障害は被爆直後が多いが、10年、20年経過した後に発症することも少なくなく、60有余年経った現在でも新たに発症するケースもあり、また母体内で被爆して生まれた子供が発症する「先天性被爆」もある。東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故から2年半が経ち、放射線の影響による健康被害は、いまだ報告されていない。しかし、数週間程度で発症する「急性障害」と数年以上の年月を経て発症する「晩発性障害」に分けられ、低線量被ばくによる晩発性障害が懸念されているだけに、継続した健康調査の重要性が指摘されている。

今回、広島赤十字・原爆病院を視察先とした理由は、医師事務作業補助者の採用や配置、業務スキル、業務内容などをヒアリングするとともに、放射線障害による被ばくなどについてもヒアリングを行った。

4-3 ヒアリング内容

日 時	平成 25 年 10 月 24 日（木） 9:30~11:00
場 所	広島赤十字・原爆病院

協力者 事務部 事務副部長 兼 診療記録管理課長 西田 節子 氏
事務部 医事課 課長 國清 真一 氏
参加委員 伊藤、柄沢

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は26名おり、医師事務作業補助体制加算の点数は、25対1補助体制加算を届出ている。内科系、整形外科系の診察室に22名を配置している。診療室以外に4名を配置しており、診断書の作成補助などを行っている。採用・配置にあたっては、医師事務作業補助者としての知識よりも（採用後の研修などで教育できるため）、「人柄」を重視している。また、正規雇用職員を配置することによって「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」を期待している。医師事務作業補助者を救急救命室に配置するのは難しい。三次救急は「戦場」のような職場なので、すべての科の知識のある人材でないと対応できない。しかし、二次救急ならば配置をしても良い。

・医師事務作業補助者の業務スキル

医師事務作業補助者に必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みや解釈（特に解剖生理）、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造、解剖生理、部位）、薬学知識（薬物療法）、簡単な病院統計学、個人情報保護などである。

以前より内科系診察室に事務員を配置し、補助者的業務や研修を行っていたが、医師事務作業補助者の制度ができたことで、より研修体系を充実させた。その研修は月2回（1回2時間、計4時間）、年間を通して行い、内容は接遇、電子カルテ入力、医学一般、検査一般、放射線などで、担当講師は医師や各部門の担当で教育担当の研修医もいる。

また、採用2年目事務職員全員が対象として、8時間を2回計16時間の研修を行っている。これは医師事務作業補助者への異動も見据えたうえで、事務職員として必要な知識を習得することを目的としている。内容は倫理、ICDコーディング、看護、情報系などで研修終了時に試験も行っている。

・医師事務作業補助者の業務内容

電子カルテの代行入力業務は、オーダーと予約入力の一部を行っている。具体的に、オーダー入力は検査の伝票的操作で、予約入力は検査室などへのオーダー予約を行っている。必ず医師が医師事務作業補助者に口頭で指示し（確認依頼）、医師事務作業補助者は、担当部門に空き状況等を確認、それを医師（患者さんの了解を確認の上）の了解をもとにオーダーを入力する。原則、病名、処方、注射の代行入力を行っていない。なお、緊急事態でオーダーなしで配置薬使用の場合などは、伝票を起こし事後にオーダー処理（記録）するケースがある。

文書代行作成は、カルテの情報をもとに、院外文書は、紹介状の返書、診療情報提供書、生命保険会社に提出する書類、介護保険の主治医意見書を作成している。院内文書は、院内案内文書、手術（承諾書、診断書）、入院（契約書、証明書、予約表）、退院サマリー、がん登録の書類、検査等の承諾書を作成している。また死亡診断書、出生証明書、傷病手当金意見書も作成している。特に生命保険会社に提出する書類は多く、月に 1,000 件以上ある。常時 5 人体制で作成・管理し、申請後 2 週間の発行を原則としている。

文書作成システムは、ニッセイ情報テクノロジー株式会社の「MEDI-Papyrus」と株式会社ピーエスシーの医療用データマネジメントシステム「Claiio」、院内ドキュメント作成／データ管理システム「Docu Maker」を使い作成している。

「死亡診断書（死体検案書）」は、名前などに外字未対応部分や救急の場合に患者名や住所など身元の確認ができないことがあるため現在は医師が手書きで作成している。

・被爆地の医療機関特有の文書作成など

特徴のある文書としては、被爆者認定患者用の「被爆者認定患者意見書」が年間 200 件程度ある。従来から罹っている患者が申請する。新規の患者がこの意見書を申請することは稀である。

広島の場合は「外部被爆（体外から放射線を受ける）」で、福島の場合は「内部被曝（体内から被曝すること）」のため、福島で今後広島と同じ様な症例が出るかどうかはわからない。データがないため長期の観察が必要である。福島原発での被曝の場合、今後考えられると思う疾病は、白血病、脊柱や肺への癌、甲状腺癌、その他放射能障害の疾病などと思われ、特に原発で仕事をしている人が懸念される。これらの疾病は 20～30 年後に「先天性被曝」としての可能性があると考えられる。しかし、国としての被曝量もいまだ決まってないので未知数である。

(5) 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院

図5-1 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院



5-1 視察先の概要とプロフィール

福島県郡山市は、県のほぼ中央に位置し国道や高速道路、新幹線などの交通の要衝でもある。郡山市医療介護病院は郡山市の西側に位置し、平成18年6月1日に開院した医療と介護受け持つ療養型の病院である。

「生命の尊重と個人の尊厳を旨とし、和をもって市民に信頼される保健・医療・福祉サービスを提供します。」という理念のもと、5つの基本方針で病院運営を行っている。

1. 郡山医師会の理念に基づき、医療機関との連携を推進し、福祉や社会資源を含めたネットワークと情報の拠点として、地域の保健・医療・福祉の質の向上を目指します。
2. 長期療養を要する方々に、一人ひとりのQOLを尊重した保健・医療・福祉サービスを提供します。
3. 施設サービスや在宅サービスの統合的なリハビリテーション提供施設として、心身機能の維持回復を図り、リハビリテーション機能の充実を目指します。
4. 医療福祉の教育研修機能を充実させ、地域の優秀な人材の育成を図ります。
5. 「災害時の郡山医師会災害対策本部」における、情報の収集と発信に協力します。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院
住 所	〒963-8031 福島県郡山市字上亀田 1 番地の 1 TEL 024-934-1240(代表) FAX 024-934-1070
病 院 長	原 寿夫
診 療 科 目	内科、婦人科、整形外科、リハビリテーション科
病 床 数	療養病床 120 床 (医療型 40 床 (医療保険)、介護型 80 床 (介護保険))
休 診 日	土曜日、日祝祭日、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)
外来診療時間	午前 9 時～正午 ※火曜日の整形外科一午前 11 時 30 分まで
面 会 時 間	午前 9 時～午後 8 時
指定医療機関	保険医療機関 (医科) 生活保護法 結核指定医療機関 原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
施 設 基 準	療養病棟入院基本料 1 療養病棟療養環境加算 1 医療安全対策加算 感染防止対策加算 2 患者サポート体制充実加算 退院調整加算 救急搬送患者地域連携受入加算 総合評価加算 入院時食事療養 (I) 入院時生活療養 (I) 外来リハビリテーション診療料 開放型病院共同指導料 地域連携診療計画退院時指導料 (II) 薬剤管理指導料 在宅療養支援病院 (2) 在宅時医学総合管理料及び特定施設入居時等医学総合管理料 在宅がん医療総合診療料 在宅患者訪問看護・指導料 CT 撮影及び MRI 撮影 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) 運動器リハビリテーション料 (I)

呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）
 集団コミュニケーション療法料

図5-2 アクセスマップ



- 福島交通バス：郡山駅発9番ポールより乗車下さい。
 希望ヶ丘行き、新池下団地行き 郡山ビッグハート下車
- 郡山駅より車で約10分
- 東北自動車道郡山インターより車で約8分

5-2 視察先選定理由

2013年9月4日厚生労働省が発表した、2012年の医療施設動態調査・病院報告（2012年10月1日時点）によれば、福島県の人口10万人当たりの医師数が122.5人（前年比1.8人減）となり、全国平均159.1人より30人以上少なく、埼玉県に次いで全国ワースト2位となっている。その原因は「東日本大震災の影響で医療機関の数が減少したため」と分析している。

被災地3県では、岩手県は病院が3カ所減ったが、診療所は震災前の数に回復している。宮城県は、病院が4カ所減ったが、診療所は震災前より増えている。福島県は、東日本大震災前の平成22年と比較し、病院は10カ所、診療所は60カ所も減少しており、福島県の「医療過疎」の進行している。

2013年9月6日の読売新聞インターネット版によれば、福島県内の非常勤医師を除いた全医師数は、2011年3月1日時点で2,024人であったが、震災と原発事故で県外への流出が相次ぎ、2012年8月1日時点で1,945人となり79人減少した。その後、2013年8月1日時点で1,989人まで回復した。これは各病院から寄せられた求人情報を県がホームページで一括掲載・募集する事業「ドクターバンクふくしま」や、5月に会津若松市に開所された福島県立医大会津医療センターに伴う医師を採用したことがその理由である。しかしそれでも震災前より35人少なく、地域別では会津地方が41人増えたが、避難指示区域が

設定された相馬地方は5人減、双葉地方は37人減であり、浜通りの医療環境は依然厳しい状況が続いている。

今回、視察を行う郡山市医療介護病院は、郡山市が社団法人郡山医師会を指定管理者に指定した病院で、医療と介護の病院として設立された。東京電力福島第一原子力発電所事故のため避難してきた患者も訪れ、証明書の発行も行っている。医師事務作業補助者を採用していないが、看護師がその業務の一部を行っているという。電子カルテと文書作成業務の内容、被災地の医療機関として対応していることなどについてヒアリングを行った。

5-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年11月5日（火）13:00～14:30
場 所	社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院
協力者	病院長 原 寿夫 氏 医事課長 伊藤 篤志 氏
参加委員	柄沢、古川

・看護師が行う医師事務作業補助業務

当院では、医師事務作業補助者を採用していないが、その業務は外来診療で看護師が電子カルテの代行入力を行っている。診察室とは別室の予診室において、患者の主訴などの問診（問診票に記入）や体温、血圧などのバイタル測定を行い、それを電子カルテに入力している。問診票入力をする看護師は、医学用語や診療科の専門用語、病気のことなどを理解しているため、事前にソーシャルワーカー的事柄（家庭生活、福祉関係、身体障害者手帳の有無など）も聞いており、その情報をもとにして医師は診察を行うため大変助かっているという。医師事務作業補助業務に期待できることは、「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」で、特に治療や病状にあった患者へのサービスが向上することを期待している。必要とする知識は、要約力や語彙力、薬学（処方箋の知識、薬物療法）などで、発行した証明書が何のために使われるのかを理解しておく必要がある。大震災関係の証明書（東京電力福島第一原子力発電所事故関連の証明書）などで、提出された証明書について弁護士（会）から問い合わせがくる場合があり、それら際にはしっかり対応できるようにしておくことが重要である。

研修については、まず入職時には電子カルテなどの情報リテラシーなどと個人情報保護法について教育を行い、その他の教育研修は年1回行われる。文書作成の実務教育などは情報管理室と医師とで個別に指導を行っている。

・電子カルテシステムと文書作成の現状

電子カルテシステムは、株式会社 ポテトの「My 電子カルテ」を外来診療で使用している。検査結果や診療内容を診察終了後、患者に情報提供できるメリットがある。USB メモリなど

にカルテや画像データの一部を提供している。また患者が来院前に症状などをデータ入力し、その入力されたデータを電子カルテに取込みができるため、医師の事務業務の負担軽減となっている。

文書作成は、医師が手書きで作成している。主治医意見書は日医総研の文書作成ソフトを使っており、診断書は電子カルテの作成ソフトを使っている。紹介状（診療情報提供書）と介護保険の主治医意見書が多く、生命保険会社に提出する書類は作成項目が多いことと会社によって書式が違うことが負担となっている。身体障害者申請の為の書類は、リハビリ担当者が下書きをした後に医師がまとめている。退院サマリーは、医師が作成している。

・被災地の医療機関として対応していること

郡山地域の医師数に関しては、協力救急チームもできたため、急性期の医師が震災前よりも2倍位増えた。しかし現状は20歳代と50歳代の医師が残り、30歳代と40歳代の働き盛りが県外へ移転した。来春の研修医希望者は増えているとのことであるが、福島県外からの希望者はかなり減っているようである。東京電力福島第一原子力発電所事故の関連の書類作成が増加しているため、今後、医師の事務業務を軽減するため、医師事務作業補助業務を行う人材の育成が必要となる。

(6) いわき市立総合磐城共立病院

図6-1 いわき市立総合磐城共立病院



6-1 視察先の概要とプロフィール

福島県いわき市にある「いわき市立総合磐城共立病院」は、いわき市病院事業の設置等に関する条例（昭和44年3月28日いわき市条例第65号）により設置された市立病院である。地域医療支援病院、福島県災害拠点病院、救急救命センター、地域周産期母子医療センターなどの指定を受けている。

「慈心妙手（じしん…相手を慈しみ思いやる気持ち、みょうしゅ…優れた医療技術）」

「わたしたちは、市民の健康と生命を守るため、安全で安心な医療を提供し、地域から信頼され、進歩し続ける病院を目指します。」という理念のもと、6項目の基本方針を掲げている。

1. 浜通り地区の中核病院としての役割を担います。
2. 地域と連携し、高度医療、先進医療、救急医療の充実に努めます。
3. 明日を担う医療従事者を育成します。
4. 患者さんと職員との信頼関係を築くことに努めます。

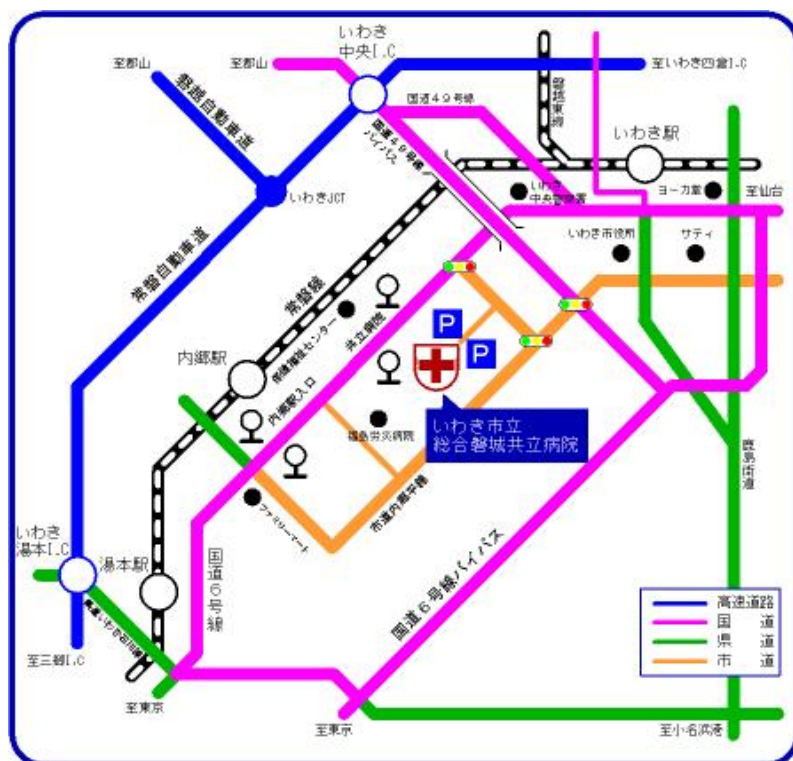
5. 安全で安心な医療を提供するため「チーム医療」を実践します。
6. 自治体病院として良質な医療の提供と健全経営に努めます。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	いわき市立総合磐城共立病院
住 所	〒973-8555 福島県いわき市内郷御厩町久世原 16 TEL 0246-26-3151（代） FAX 0246-26-2224
病 院 長	樋渡 信夫
病 床 数	828床（一般 755 床、精神 21 床、結核 46 床、感染 6 床）
1 日平均外来患者数	952 人（平成 24 年 3 月分）
1 日平均入院患者数	593 人（平成 24 年 3 月分）
診 療 科 目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、 心療内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、 小児外科・整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、 リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科
院 内 標 榜 科	糖尿病・内分泌科、血液内科、腎臓・膠原病科、病理科、 未熟児・新生児科、疼痛外来
専門高度診療センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域周産期母子医療センター 2. 小切開心臓手術—大動脈ステントグラフトセンター 3. 心血管治療センター 4. 人工関節センター 5. 肝炎対策センター 6. 炎症性腸疾患センター
認定及び指定	特殊診療 救命救急センター 人工透析センター リハビリセンター 新生児集中治療室 中央集中治療室(CTU) 訪問診療 厚生労働省臨床研修指定病院

災害拠点病院
地域医療支援病院
福島県がん診療連携推進病院
地域周産期母子医療センター
財団法人日本医療機能評価機構認定病院
一般病棟 7対1入院基本料
救命救急入院料 1
新生児特定集中治療室管理料 2
診療録管理体制加算
救急医療管理加算
療養環境加算
小児療養環境特別加算
薬剤管理指導料
入院時食事療養費(Ⅰ)
医療安全対策加算
感染防止対策加算
褥瘡患者管理加算
ハイリスク分娩管理加算
施設基準届出手術実施件数
各学会認定研修病院
結核病棟 7対1入院基本料
特定集中治療室管理料 2
小児入院医療管理料 2
臨床研修病院入院診療加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算
急性期看護補助体制加算
医師事務作業補助体制加算
検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)

図6-2 アクセスマップ



- ・ JR いわき駅から
常磐交通バス3番のりばから乗車し、「共立病院」バス停車
- ・ JR 内郷駅から
国道6号線沿い「内郷駅入口」バス停からいわき駅方面行きバスに乗車し、
「共立病院」バス停車

6-2 視察先選定理由

福島県は、各自治体の中でも医師事務作業補助者の雇用創出や増員に対して積極的に行っている。保健福祉部地域医療支援センターでは、県内で働く医師に対する支援として、「病院勤務医の負担軽減による働きやすい職場環境整備のため、医師事務作業補助者の増員や認定看護師の養成など病院が実施する医師が働きやすい職場環境整備を推進する取組みを支援します。」というホームページを掲げている。また、平成23年度福島県緊急雇用創出基金事業（地域人材育成事業）として、同じく保健福祉部は、「病院勤務医の負担軽減に資する医師事務作業補助者を医療機関に配置し人材を育成するとともに、補助者の導入推進に向けた効果や課題を検証する事業」という推進事業により、医師事務作業補助者を導入し、医師の事務業務の負担軽減につながり、医師からは大変大きな評価を得ている病院（須賀川市の公立岩瀬病院）もある。

今回、いわき市立総合磐城共立病院を視察先とした理由は、県立や市立などの公立病院が、積極的な医師事務作業補助者の採用と配置をしている状況をヒアリングし、また東日

本大震災の被災地であり、東京電力福島第一原子力発電所事故の関連の文書などについてヒアリングを行った。

6-3 ヒアリング内容

日 時 2013（平成25）年11月5日（火）16:15～17:45
場 所 いわき市立総合磐城共立病院
協力者 医事課 医事係長 猪狩 正信 氏
 医事課 医事係 主査 藤原 智美 氏
参加委員 柄沢、古川

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は22名。医師事務作業補助体制加算の点数は、40対1補助体制加算を届出ている。その他職種として医局秘書、院長秘書がいる。当院ではこれらは医師事務作業補助者の届出はしていない。

採用に関しては、退職者の補充または人員拡大の計画がある時など求めに応じて採用している。社交性、積極性、メンタル面の強さ、「空気」を読む力などが必要である。医師から求められる医師事務作業補助者は、対応の素早い人（業務スキルだけではなく、早く返答が返ってくる人）などの要望が多く、そのような能力を持つ人を配置すると、医師からはその人を異動しないで欲しいとまでいわれている人もいる。医師事務作業補助者を採用することで「医師の作業軽減化」が図られ、医師から事務業務などが大変軽減されたとの意見が多く寄せられている。しかし現実問題として、医師1人に医師事務作業補助者を1人配置できない。当院の医師は100人ほどおり、すべての外来に配置することは実際問題大変厳しいといえる。

・医師事務作業補助者の業務スキル

当院の医師事務作業補助者に必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みと解釈、医学（医学用語、人体の構造）、個人情報保護などである。特に要約力と語彙力は、文書の提出先によって、求められる表現が異なる場合がある。例えば、生命保険会社に提出する書類は、簡潔に書く必要があるため要約力と語彙力が必要である。またカルテに使用される漢字の読みと解釈は、医学用語など専門的知識ないと厳しい。

研修については、院内で6か月の研修期間内に32時間以上の研修（医師事務作業補助者としての業務を行いながらの職場内研修を含む）を行っている。具体的には、1日1時間を32回行っている。またそれ以外にも電子カルテやオーダーの操作指導も行っている。6ヶ月の研修後、民間資格である「ドクターズクラーク」を受験させ（個人負担8,000円）、それに合格すると翌年から嘱託雇用に変わるシステムもある。研修後にオーダー入力や予約入力などできるようになってから診療科に配置する。しかし配置しても英語で書かれて

いるカルテや癌のステージ分類の記載、放射線量等は診断書で記載を求められるが、それを電子カルテから読み取り記載することは難しいので、継続的な研修でスキルアップに努めている。

・ 医師事務作業補助者の業務内容

外来での電子カルテの代行入力業務は、希望のあった一部の診療科で行われており、診療室に医師事務作業補助者用の電子カルテ端末を使い、オーダー入力と予約入力を行っている。退院サマリーは、一部の診療科で定型文的事柄の入力を行い、処方箋入力は簡単な作業である d o 処理だけを行っている。問診票の入力は脳外科だけが行っており、配置されている診療科によって業務内容が異なっている。医師事務作業補助者を配置している科は、救命救急センター、麻酔科、心臓血管外科であり、それ以外は一人で複数科かけ持ちできるように指導して、担当が休んでも業務に支障がでないようシフトを組んで行っている。

文書代行作成は、ニッセイ情報テクノロジー株式会社「MEDI-Papyrus」のシステムを使っている。これは生命保険会社に提出する書類が一番多いためである。その他文書で現在困っているのは、東京電力関連の文書（賠償絡みの文書）で、平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月の 1 年間で 924 件あった。特にこの文書は、避難生活との関連性「あり・なし」を医師に判断させ、明記する箇所があり、発行後に内容についての照会文書も多く、医学的根拠を問われるなど対応に苦慮している。

院内文書では、退院サマリーの作成を一部の診療科で行っている。また、同意書などは医師がある程度説明後に、別室で医師事務作業補助者が作成し、医師の承認を得て患者に渡している診療科もあり、スピードアップが図られ、配置した効果が出てきている。

・ 被災地の医療機関として対応していること

東日本大震災直後の当院は、患者の急な避難で薬やお薬手帳を持っていない人たちへの対応に追われた（薬を出したくても患者情報がなく内容を患者から聞き取り処方するために、かなりの時間を要した）。当院から支払機関などへ処方データ照会を行ったが、回答は数件のみしかなく、緊急時の国や行政の法的整備、対応の必要性、情報公開の重要性を痛感した。また福島県の医師不足に関しては、もともと少なかったが、震災後研修医の応募が減っている現状がある。

(7) 医療法人 松田会 松田病院

図7-1 医療法人 松田会 松田病院



7-1 視察先の概要とプロフィール

仙台市泉区は仙台市の北西にあり、高度成長期から丘陵部の宅地開発が徐々に進められ仙台市のベッドタウンとして発展した。昭和46年に泉市として市制施行し、昭和63年に仙台市に編入合併され、平成元年に仙台市の政令指定都市移行に伴い泉区となった。泉区にはJリーグ・ベガルタ仙台のホームスタジアムであるユアテックスタジアム仙台や東北楽天ゴールデンイーグルスの練習場と合宿所もある。

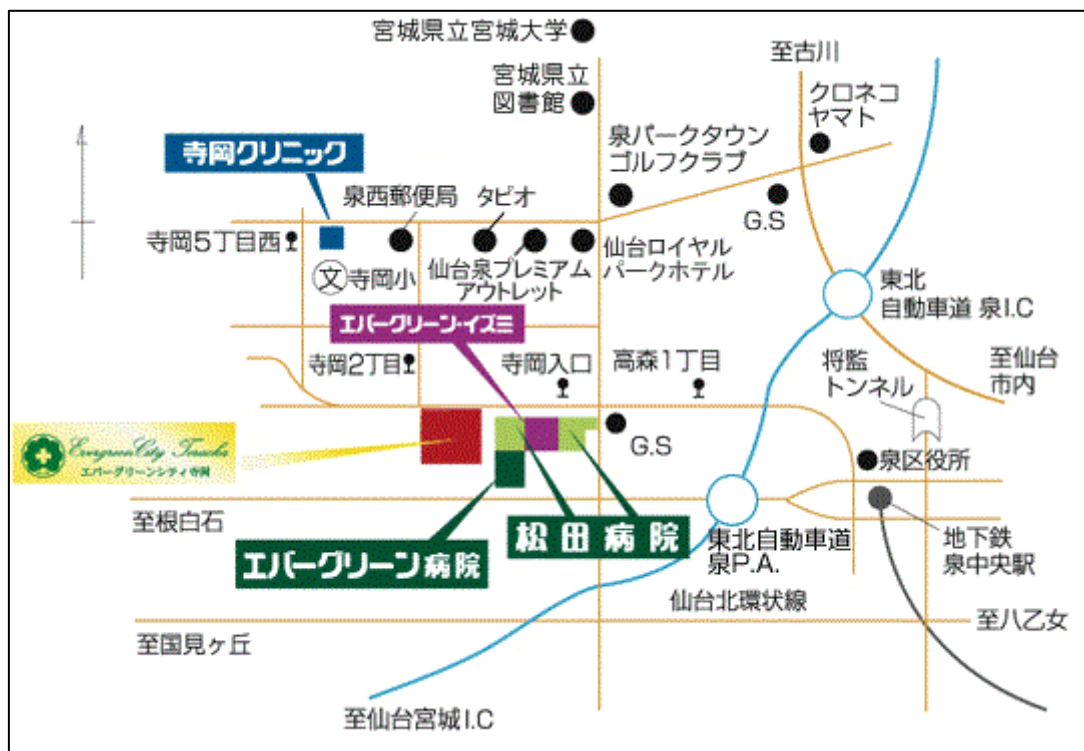
松田病院は、仙台市営地下鉄南北線で仙台駅より泉中央駅まで約15分、泉中央駅から宮

城交通バスで寺岡入口停留所より徒歩2分の位置にある。昭和57年(1982年)に開業し、「身近なかかりつけ医」として地域医療に携わってきた。医療法人松田会としては、平成8年(1996年)に介護老人保健施設エバーグリーン・イズミ、平成11年(1999年)2月にメンタルクリニック・歯科、平成14年(2002年)6月に認知症疾患専門病院エバーグリーン病院を設立。その後も介護老人施設や数多くのクリニックを設立し、地域に根ざした医療を目指し、傷病を治す医療から積極的に健康を築き保つための医療を目指している。

●病院プロフィール(ホームページより)

名 称	医療法人 松田会 松田病院
住 所	〒981-3217 宮城県仙台市泉区実沢字立田屋敷17-1 TEL 022-378-5666 FAX 022-378-5009
開 設 者	松田 倫政
病 院 長	松田 恵三郎
病 床 数	一般病床77床(内22床 亜急性期病床) 回復期病床48床
診 療 科 目	外科 整形外科、スポーツ整形外科、形成外科、 リハビリテーション科、内科、消化器内科、呼吸器内科、 循環器内科、神経内科、リウマチ科、麻酔科、糖尿外来、 いびき・無呼吸外来、眼科、歯科、肩外来、股関節外来
グループ一覧	松田病院、東北股関節疾患センター、エバーグリーン病院、 寺岡クリニック、鶴ヶ谷クリニック、仙台脳外科クリニック泉中央、 八木山整形外科クリニック、エバーグリーン・イズミ、 エバーグリーン・ツルガヤ、エバーグリーン・ヤギヤマ、 (医療法人社団 光友会)アルパイン川崎 [関連事業所] 株式会社 松田会、有料老人ホーム エバーグリーンシティ・寺岡、 寺岡デイサービスセンター、鶴ヶ谷デイサービスセンター、 マーク・トゥエイン、パークタウンデイサービスセンター

図7-2 アクセスマップ



7-2 視察先選定理由

国立大学法人東北大学病院は、有期雇用として平成25年7月22日に医師事務作業補助者を募集開始した。業務内容は、診療に関するデータ整理・統計調査、診療記録への代行入力、文書作成補助（診断書、主治医意見書等）、その他医師事務作業補助全般である。応募資格は、医療事務従事経験があり、病床200床以上の病院で3年以上勤務したことのある者、医師事務作業補助若しくは医療事務関連の資格を有する者、WORD及びEXCELでの事務処理が可能な者、業務について誠実かつ積極的に取り組む意思のある者を対象としている。

一般財団法人厚生会 仙台厚生病院は、看護補助業務（ナースエイド）で採用し、経験後に勤務実績によりクランクとなり、勤務しながら院内医師事務作業補助者研修を受講し、本人のやる気と能力次第で医師事務作業補助者になれるスキルアップシステムを構築している。

平成20年の診療報酬改定に伴い医師事務作業補助者という職名が誕生して5年が経過し、この職種が医療機関に確実に定着しつつある。今回、松田病院を視察先とした理由は、介護施設やデイサービスセンター、有料老人ホームなどを経営し、幅広い医療機関を展開している当院の医師事務作業補助者の採用と配置、業務スキル、業務内容などについてヒアリングを行った。

7-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年11月7日（木）13:30～15:00
場 所	医療法人 松田会 松田病院
協力者	医事課 係長 堀籠 かおり 氏
参加委員	今野、伊藤、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は10名。院内では「診療補助スタッフ」と呼んでいる。全員女性で正職員9名、パート職員が1名で、そのうち5年経験者が1名である。医師事務作業補助体制加算の算定区分は、「25対1」を届出ている。

新卒者（大学、専門学校）と中途採用者を医事課で採用し、医師事務作業補助者としての適性をみて診療補助スタッフとして配置している。配置することによって「医療の質の向上」「患者サービスの向上」を期待している。配置のポイントとして、コミュニケーションの能力とパソコンスキル、文書作成の知識などで特に人柄を重視している。現在、内科の6診療室に各診療室1名体制で配置している。

・医師事務作業補助者の業務スキル

医療文書は、一人あたり月に平均100件程度作成している。主に生命保険会社へ提出する書類が多く、そのため必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医学知識（医学用語、人体の構造）、その他としてコミュニケーション能力などである。電子カルテの使用方や医学用語、略語などの勉強会を、月1回のペースで開催している。また各人とも独学で用語などを勉強している。その際に使用している教材は、用語集やオリジナルメモ、スマートフォンを使っている。

・医師事務作業補助者の業務内容

当院の医師事務作業補助者の業務内容は、診療室においての患者の呼び込みや診療準備である。診療室には電子カルテが入っているパソコンが3台（医師が2台、診療補助スタッフが1台）あり、診療録の入力は医師が行い、診療補助スタッフは医師の指示を受けてオーダー入力をしている。

文書代行作成は、院外文書では、生命保険会社に提出する書類が一番多く一人あたり月に平均100件以上作成しており、その際、医師が書いた電子カルテの情報をもとにして、ニッセイ情報テクノロジー株式会社の文書作成用ソフト「MEDI-Papyrus」を使い作成している。介護保険の主治医意見書は月に100件程度あり、その次に診断書が多い。紹介状と診療情報提供書は医師が作成している。院内文書は入院（契約書、証明書、予約表）を作成している。院内案内文書はソーシャルワーカーが作成している。死亡診断書、傷病手当金意見書、療養費同意書、自賠責、労災関係書類も作成している。東日本大震災被災地特

有の医療費軽減の証明書は平成 25 年 3 月まで作成していた。また作成された文書の期限や提出先についても理解しておく必要がある。作成した文書がどのように使われ、患者がそれによって給付金（主治医意見書をもとに市町村が要介護認定審査行うことなど）などを受けられるかどうかなど理解しておくことは大変重要である。

将来、医師事務作業補助者になる人に対して伝えることは、医師から頼られ必要とされる業務なので大変やりがいのある仕事だと思う。素直で人の話をよく聞き、知識も必要であるが、やる気と感謝と思いやりのある医療人として臨んでもらいたい。

(8) 医療法人社団赤石会 赤石病院

図8-1 医療法人社団赤石会 赤石病院



8-1 視察先の概要とプロフィール

宮城県塩竈市は、仙台市と日本三景で有名な松島との中間に位置している。東北鎮護・陸奥国一之宮鹽竈神社の門前町として、またみなと町として発展してきた。日本三景松島の島々の大半は塩竈市に属しており、風光明媚な地域でもある。

赤石病院は、JR 仙石線下馬駅から徒歩7分、宮城交通バス下馬停留所より約2分の位置にあり、昭和37年に開業し、今年で51年を数える。病院は高台にあり、東日本大震災時も地震、津波の影響を受けず、診療が続けられた。

「患者様の権利を尊重した患者様中心の医療に努めるとともに、地域住民から信頼され愛される病院を目指します。」という理念のもと、6項目の目標を掲げている。

- ・病院職員としての理念を遵守し、患者様の生命を尊重した安全で安心のできる医療を展開します。
- ・医療水準の向上に努め、質の高い効果的な医療を提供することにより、患者様の満足と地域医療の発展に貢献します。
- ・救急医療は医療の原点と考え、24時間対応します。
- ・病院に働くすべての職員が、一人の患者様に平等にかかわり合う体制を確立します。

- ・患者様が生きるエネルギーを感じ取れるような、職場づくりをします。
- ・病院の健全な経営に努め、良質な医療を継続的に提供します。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	医療法人社団赤石会 赤石病院
住 所	〒985-0023 宮城県塩釜市花立町 22-42 TEL 022-362-8131 FAX 022-362-8134
受付時間	9：00～17：30
病 院 長	赤石 隆
病 床 数	一般 51 床 療養 28 床（平成 21 年 8 月）
敷 地 面 積	延べ面積(建築物全体) a. 申請部分の面積 3946.87m ² b. 申請以外の部分の面積 1307.29m ² 合計 5254.16m ² 敷地の面積 3455.33m ²
診 療 科 目	外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、 内科、漢方内科、救急科、麻酔科、放射線科、 リハビリテーション科、呼吸器外科、気管食道外科、 消化器外科、乳腺外来、肛門外科
主 な 設 備	手術室（第一・第二） X線テレビ（DR） CT スキャン 16 列 MRI1.5 テスラ（磁気共鳴断層装置） 各種内視鏡 デジタル超音波診断装置 骨密度測定装置 マンモグラフィ等
救急告示指定	昭和 45 年 6 月指定
沿 革	1962 年 8 月 赤石病院開設 1970 年 6 月 救急告示病院 1998 年 11 月 医療法人社団赤石会設立 初代理事長兼院長に赤石健一就任 2000 年 9 月 赤石隆 理事長兼院長に就任 2005 年 4 月 多賀城市笠神二丁目 136-2、11 に 看護師宿舎新築移転 「RC 造 地上 3 階建て 延 410.82m ² 」

- 2008年 8月 第1期工事西棟完成
 (建築面積 642.42m² 延べ床面積 2046.69m²)
- 2009年 7月 第2期工事南棟完成 (建築面積 1545.99m²)
- 2009年 8月 「生活習慣病予防健診」の業務委託医療機関に
 指定協宮城支部発
 第0828001号 22年4月より健診開始
- 2010年 1月 西棟内視鏡室増築
- 2010年 2月 電子カルテ稼働
- 2010年 3月 西棟内視鏡室 15日完成
 上部消化管汎用ビデオスコープ
 (ハイビジョン高画質内視鏡)
 上部消化管汎用ビデオスコープ
 (経口・経鼻用内視鏡)
 電子内視鏡システム導入 (オリンパス社製)

図8-2 一般外来



手術室



MRI室



8-2 視察先選定理由

東日本大震災により市沿岸部に津波が襲来し、津波の高さは、本土側では概ね1.5m~4.8m、浦戸地区では8m(標高)を超え、浸水範囲が本土地区では市域面積の約22%、浦戸地区では全島において居住区域に達するなど甚大な被害をもたらした(塩竈市ホームページより)。また、塩竈市の隣の多賀城市では津波による死者が185人、塩釜市など近隣の港町を上回った。津波の死者の多くは、市内を横断する国道45号と県道仙台塩釜線に集中している。週末で交通量が多く、地震の影響で信号が止まり、大渋滞が起きていたところに津波が襲ったことによる。

大震災により、宮城県の医療施設の被害の大きかった気仙沼医療圏と石巻医療圏は公立病院の再建が具体化してきている。

気仙沼医療圏では、南三陸町内に外来診療部門を残しながら登米市米山町に移転した公立津川病院が、同町内に新病院を2015年4月に開業する計画を検討している。

石巻医療圏では、石巻市立、市立雄勝、恵愛の3病院が休止中で、市立病院は2012年5月に仮設診療所を設置し、2016年7～8月の新病院開院に向け基本設計に着手している。圏内の医師とベッド数が足りず、急性期の患者を受け入れている石巻赤十字病院は、症状が安定した患者の受け入れ先の確保に苦慮している。仙台市（宮城野区、若林区）、塩竈市はほぼ震災前まで回復している。

赤石病院は、塩竈市の高台にあるため、東日本大震災の地震や津波などの直接的な被害を受けなかったため、震災3日後の3月14日に、塩竈市内において行政・病院・医師会などが結集した「地域対策本部」の立ち上げにも、近隣市町や自衛隊、保健所などと一緒に当院も参加され復旧復興に奮闘された。

今回、赤石病院を視察先とした理由は、当法人の常務理事兼事務長であり、「(社)日本医業経営コンサルタント協会」において認定登録医業経営コンサルタントである遠藤氏から震災時の医療機関の状況と医師事務作業補助者についてヒアリングを行った。

8-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年11月7日（木）16:30～17:00
場 所	医療法人社団赤石会 赤石病院
協力者	常務理事 事務長 遠藤 奏 氏
参加委員	今野、伊藤、野田

赤石病院は、塩竈市の高台にあるため、東日本大震災の地震や津波などの直接的な被害は受けなかったものの、停電のため電子カルテが使えなかった。一時的に紙カルテを使って診察を行ったが、非常用自家発電装置を使い少しずつ電子カルテシステムを普及させ、患者の診察を行った。院内にサーバーがあったため、大震災で間接的に被災したこともあり、将来的に電子カルテをクラウド化することも考えている。

遠藤氏は常務理事で事務長も兼ねており、また「(社)日本医業経営コンサルタント協会」において認定登録医業経営コンサルタントであるため、常に経営者と一体となり病院経営を考えている。施設基準は、入院基本料は15対1、療養型28床と一般型51床の合計79床である。外来は一日平均110～120人で、手術は原則午後に行っている。現在、事務員が7名おり、医師事務作業補助者として届出ている職員はいない。採用と配置に関しては、病院経営を考慮しながら当院としてのメリットとデメリットをよく検討した上で結論を出したい。

現在電子カルテの入力と文書作成は、医師がすべて行っている。入院患者と外来患者は病院規模として適正な人数で、医師も定着しているため今のところ業務多忙となることはない。将来、当院でもDPCを取り入れる時が来ると思うので、その際に医師事務作業補助者の採用も検討することになる。

平成25年度 文部科学省
東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

総 括 報 告 書

平成26年3月

宮城県の医師・看護師不足を補うための医師事務作業補助者育成事業

学校法人日本コンピュータ学園 東北保健医療専門学校

*本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます。